

地球環境に配慮できる建築デザイナー・エンジニアを育てる

No.
121
海建

カイケン magazine

年報
号

研究室説明会の日程
研究室紹介
修士論文・卒業研究
就職状況

目次

令和6年度 研究室説明会日程・クラス担任・学科校務担当	2	令和6年度 大学院情報	17
令和5年度 学生受賞	3	博士論文+修士論文+卒業論文・卒業設計	18
学科イベントカレンダー	3	教員研究業績・研究室活動業績	20
研究室紹介	4	就職情報	30

● 令和6年度 研究室説明会日程

ゼミ希望調査締切：4月17日 決定：4月19日

時間	1時限		2時限		3時限		4時限	
日・教室	9:00~9:40	9:50~10:30	10:40~11:20	11:30~12:10	13:20~14:00	14:10~14:50	15:00~15:40	
4月4日(木) 1325教室	佐藤研究室 [建築デザイン・計画]	長谷川研究室 [建築意匠・建築設計]	江川研究室 [医療・福祉建築計画]	海洋建築・建築デザイン研究室 (菅原・小林(直))	山本研究室 [沿岸地域計画学]	ウォーターフロント都市工学研究室 (寺口・桜井)	星上研究室 [沿岸環境防災]	
4月5日(金) 1325教室		北嶋研究室 [構造工学]	高橋研究室 [建築構法]	福井研究室 [コンクリート構造工学]	恵藤研究室 [海洋構造デザイン]	相田研究室 [海洋物理・計算工学]	居駒研究室 [海洋空間利用工学]	

令和6年度 教室主任・クラス担任

	教員氏名	研究室	電話番号	E-mail
教室主任	福井 剛	1366	047-469-5527	fukui.tsuyoshi@nihon-u.ac.jp
クラス担任 B1 年	佐藤 信治	1353	047-469-5419	sato.shinji@nihon-u.ac.jp
	長谷川 洋平	1356	047-469-5480	hasegawa.yohei@nihon-u.ac.jp
クラス担任 B2 年	星上 幸良	1335	047-469-5396	hoshigami.yukiyoshi@nihon-u.ac.jp
	菅原 遼	1352	047-469-5424	sugahara.ryou@nihon-u.ac.jp
	柴山 淳	1366	047-469-5527	shibayama.atsushi@nihon-u.ac.jp
クラス担任 B3 年	高橋 孝二	1346	047-469-5568	takahashi.koji20@nihon-u.ac.jp
	江川 香奈	1365	047-469-5426	egawa.kana@nihon-u.ac.jp
	寺口 敬秀	1334	047-469-5526	terakuchi.takahide@nihon-u.ac.jp
クラス担任 B4 年	山本 和清	1362	047-469-5483	yamamoto.kazukiyo@nihon-u.ac.jp
	相田 康洋	1342	047-469-5423	aida.yasuhiro@nihon-u.ac.jp
	居駒 知樹	1341	047-469-5482	ikoma.tomoki@nihon-u.ac.jp
クラス担任大学院	北嶋 圭二	1361	047-469-5385	kitajima.keiji@nihon-u.ac.jp
クラス担任(学生相談)	寺口 敬秀	1334	047-469-5526	terakuchi.takahide@nihon-u.ac.jp

令和6年度 学科校務担当

	教員氏名	研究室	電話番号	E-mail
就職指導	高橋 孝二	1346	047-469-5568	takahashi.koji20@nihon-u.ac.jp
	長谷川 洋平	1356	047-469-5480	hasegawa.yohei@nihon-u.ac.jp
	寺口 敬秀	1334	047-469-5526	terakuchi.takahide@nihon-u.ac.jp
留学生担当	高橋 孝二	1346	047-469-5568	takahashi.koji20@nihon-u.ac.jp

学科事務室

〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1
日本大学理工学部 海洋建築工学科事務室
TEL: 047-469-5420 FAX: 047-467-9446岡崎 敏美
関野 まゆみokazaki.toshimi@nihon-u.ac.jp
sekino.mayumi@nihon-u.ac.jp

学生受賞

●優等賞（成績優秀者）

浅井駿来 鈴木 渉 松本日菜子 奥村碩人

●理工学部長賞

河合泰誠：2023年度日本建築学会大会学術講演会（海洋建築部門）
若手優秀発表賞 受賞

「洋上風力発電施設の建設に対する漁業者の評価に関する研究 漁業協同組合に対するアンケート調査結果」（ウォーターフロント都市工学研究室）

齋藤友祐：2023年度日本建築学会大会学術講演会（海洋建築部門）
若手優秀発表賞 受賞

「津波災害時における水族館の避難計画に関する研究沿岸域に立地する水族館を対象とした調査」（ウォーターフロント都市工学研究室）

●加藤賞

山田遊耶：滑り基礎構造建物の地震時挙動に関する研究
（北嶋研究室）

杉山浩隆：繰返し荷重下における折返しプレースの限界変形性能に関する研究（北嶋研究室）

太田優人：水運を活用した江戸川区の新庁舎の設計 - 防災に特化した庁舎施設の提案 - （佐藤研究室）

●海建優秀賞

立石千遥・谷内颯真・松本日菜子：塔状比2の滑り基礎構造建物の2方向振動台実験（北嶋研究室）

小川雄暉・篠田健太：建物最上階に設置される設備機器の耐震性能に関する解析的研究（高橋研究室）

●桜建賞

千田悠斗・成田彩夏：一点係留された可変ピッチ型垂直軸風車の振れ回り運動に与える可変角の影響に関する実験的研究（居駒研究室）

浅井駿来：絶海の未来航路 - 宇宙輸送技術を活用した離島型宇宙港の提案 - （佐藤研究室）

石原汐莉：沿岸部に立地する神社を対象とした南海トラフ地震による津波被災リスクの実態と再建方策の検討（海洋建築・建築デザイン研究室（計画））

●海建賞

八阪柊吾：行徳寄生建築（海洋建築・建築デザイン研究室（意匠））
田中陽介：海水浴場における情報機器の利活用に関する研究 - 日本全国の海水浴場を対象とした調査 - （ウォーターフロント都市工学研究室）

四宮夕芽花・松下毅：垂直軸型風車に作用する風荷重の特性把握（恵藤研究室）

阿部達・木村仁美・保坂駿・牧良磨：部分アンボンドPCaPC梁の地震時挙動に関する実験的研究（福井研究室）

柴田将樹：水害リスクを伴う市街化調整区域の水害対策に関する調査研究（山本研究室）

苅込波希・河津友規：学校の津波避難計画作成手法に関する研究（星上研究室）

●桜工賞

鈴木雅洋・佐藤友香・木村仁美：広報活動への多大なる貢献により
浅井駿来・富永玲央・樋口大雅：デザインコンペティションでの受賞を称えて

関 亮太：国家公務員採用総合職試験（国交省）合格を称えて

●令和5年度（第67回）理工学部学術講演会優秀発表賞

江口琢菜：観測加速度記録に基づくRC造建物の応急危険度判定法の適用性に関する研究 - 降伏判定条件に関する検討 - （北嶋研究室）

福永勇太：可変ピッチ垂直軸型洋上風車の1点係留時における振れ回り運動シミュレーション - 風単独作用時におけるスラスト制御が振れ回り運動に与える影響 - （居駒研究室）

苅込波希：学校における津波避難計画の普及促進に関する研究（星上研究室）

安藤大翔：石油掘削リグを用いた海上都市計画（佐藤研究室）

川名神威：河川空間のオープン化の実施動向と事業傾向に関する研究（海洋建築・建築デザイン研究室（計画））

四宮夕芽花：静止した浮体式垂直軸型風車に作用する風荷重の特性把握（恵藤研究室）

学科イベントカレンダー

2024年			
4月6日(土)	新入生歓迎式	夏季休暇中	海洋実習Ⅱ（2年生）
4月28日(日)	新入生オリエンテーション	8月18日(日)~25日(日)	第9回日韓デザインキャンプ
7月中旬	「海と建築」ポスター発表会（1年生）	11月2日(土)~5日(火)	桜理祭
夏季休暇中	海洋実習Ⅰ（1年生）	12月3日(火)	理工学部学術講演会
2025年			
1月第一週	博士論文発表会	3月5日(水)	卒業・修了発表
2月3日(月)	卒業研究発表会	3月25日(火)	卒業式（学位記伝達式）
2月17日(月)~18日(火)	修士論文審査会	—	—

建築デザイン・計画研究室

1353 室

Teaching Staff



准教授
佐藤 信治

●研究室紹介

本研究室は、建築のデザインに関わる様々な事象について、積極的に学習したい！という学生・院生で構成されています。まずは建築やデザインが好き！であることが大前提です。建築をデザインすることは大変な作業ですが、この大変なことを積極的に楽しめる人と一緒にワイワイと学んでいきたいと希望しています。

また建築をデザインする前段階としては建築を計画すること、ということも重要です。このため、研究室では、企画から実際に建築物を創造するまで（含、施工）の全過程に興味があり、意欲的な学生の入室を希望しています。将来の進路に関しては、官僚の他デザイン事務所やゼネコン設計部への就職を積極的に支援し、設計部門への就職率は毎年100%（当研究室比）を維持しています。

●卒業研究のテーマ

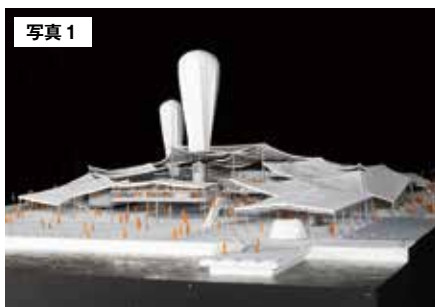
本研究室では、建築の創作過程における水環境との関わりを特に重視しており、これを専門の〈設計・デザイン〉と〈建築計画〉の両分野から研究しています。従って卒業研究は最終的に設計・デザインテーマと建築計画テーマとに分かれて実施します（写真1）。今年度も計画と設計の両方について行う予定です。

〈設計・デザインテーマ〉

- ・水環境を活かした建築のデザイン
- ・蔵を活用したサテライトオフィスのデザイン
- ・3Dスキャナーを活用した空間アーカイブ（写真2）
- ・「MR(Mixed Reality)」を活用したデザイン
- ・Urban Plan program in Japan (ULI) への参加

〈建築計画テーマ〉

- ・国指定登録有形文化財の調査・研究
- ・水族館に関する建築計画の研究
- ・水環境下における建築の空間デザインの研究
- ・社の空間解析に関する研究



〈インターンシップ〉

国内外の地方自治体、デザイン事務所と積極的に交流を図っています。近年は、夏期休暇を利用して九州や東北の地方自治体と「まちづくりワークショップ」を開催しています。2023年は、沖縄の建築の見学調査した合宿を行いました。合宿期間中においては、沖縄の気候風土が建築物に与える影響を調べ、その成果を歴史的空間再編コンペティション2023に応募するなど、実践的なゼミ活動を行っています（写真3）。

2011年度からは中華人民共和国北京市の中国建築科学研究院と共同で海外インターンシップを開催しております。また、研究室活動としては2022年から横浜市のN地区及びY埠頭における都市計画をデザインしています。さらにアメリカのAIAアジアとの共同プログラムとしてUrban Plan program in Japan (ULI) へ参加しております。

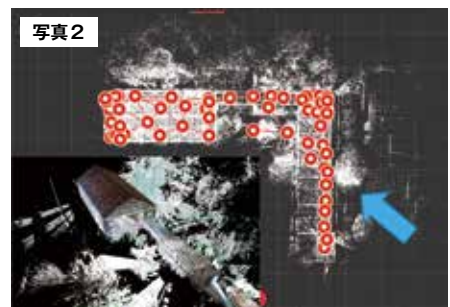
●ゼミナールのテーマ

設計デザイン及び建築計画の分野について、基礎力の養成を主眼に幅広く学習します。具体的には、各学年の課題設計、学生コンペ等の指導、建築作品に関する展示会や話題建築物の見学会などを随時行っています。ゼミナールについては、学期末にその成果の発表会を実施しています。また、大学院生や学部生とのコラボレーションでコンペへの参加を推奨しております。2023年度は、共立女子大との共同プログラムの一環で、コンペに応募し入賞を果たしています（写真4）。

●着手条件

研究室の説明会に必ず出席し、個別面接を受けてください。設計を希望する者は2年次までの全ての設計作品を面接日に持参してください。ただし計画・研究分野の希望者はこの限りではありません。

また、大学院進学希望についても、面談時にご相談ください。



沿岸地域計画学研究室

1362 室

Teaching Staff

准教授
山本 和清

●研究室紹介

本研究室は、沿岸域を対象にした地域計画及び地域活性化計画を研究分野とした研究室です。社会の動向により日々変化を続ける沿岸域において、常に新しい視点でまちづくりを考え、安全・安心・快適な都市空間の創出や社会システムの向上を目指して研究を進めています。

また、本研究室ではOJT（On the Job Training）に重きを置いて研究を進めています。OJTとは「実地の経験を通して知識や技能を身につけさせる教育方法」のことです。本研究室の研究テーマでも「まちづくりにおける社会福祉のあり方」について考究しているため、「ハンザ（旧アクセスディンギー）」という誰もが（小さい子供から高齢者・障がい者までも含む）海の快適性を享受できる小型ヨットの普及活動により、高齢者・障がい者を含む市民との触れ合いを経験することで、研究に必要な考え方や見識を身につけています。具体的には以下の活動を行っています。

「たてやま海まちフェスタ」（千葉県館山市において毎年7月に開催されている、海をまちづくりの中心に位置つけた南房総地区における大々的なイベント）、「東京夢の島マリーナフェスティバル」「浦安マリーナフェスティバル」（毎年9月に開催される両マリーナの一大イベント）、「船橋港まつり」（毎年10月に船橋漁協や船橋観光協会、様々な海関係のNPOや水産関係の地元企業を中心となって、船橋漁港で行われる市民まつり）では、それぞれの会場の海域を使用してハンザの体験乗船会を実施し（写真1、2）、研究室の学生自らが乗船時の介助者となり、体験乗船会に訪れた市民との交流を深めています。この様な活動を通して地域市民と触れ合い、海の自然や沿岸域の市町村に存在する海の魅力的な資源を発見していくことにより、本研究室の研究テーマとしている地域活性化方策や高齢者・障

がい者にも優しいまちづくりについて、実体験として学べるのも本研究室の大きな特徴と言えます。

●卒業研究のテーマ

【地域・都市活性化計画系】

- 1) みなと町活性化方策と「環境・観光・学習」港湾計画
- 2) 沿岸域の防災まちづくりに関する手法論の検討
- 3) 漁港における観光利用の推進方策
- 4) 体験観光による地方都市の活性化方策
- 5) 海洋リゾートにおける観光資源の有効利用方策

【福祉のまちづくり計画系】

- 1) 高齢者・障がい者と海のUD計画
- 2) 高齢者・障がい者の災害時避難計画

【海洋プロジェクト系】

- 1) 海洋政策及び沿岸まちづくりにおける制度設計（再生・復興・復活・改革）
- 2) Something New Project

●ゼミナールのテーマ

ゼミナールでは、卒業研究において必須のPCスキルを身に付けると同時に、宅建資格取得講習会や、自分の考えを解りやすく相手に伝えるプレゼンテーション能力の向上を目指した課題に取り組んでもらいます。

●着手条件

特に無し。研究室訪問時に、熱意を持って自己アピールしてください。

写真1 「たてやま海まちフェスタ」
ハンザ体験乗船会

写真2 「船橋港まつり」ハンザ体験乗船会



写真3 研究室合宿でのゼミ課題発表会

写真4 新入ゼミ生歓迎会
(東京都臨海広域防災公園見学会)

建築意匠・建築設計研究室

1356 室

Teaching Staff



准教授
長谷川 洋平

●研究室紹介

本研究室の主な活動内容は、建築と都市に関する意匠論的研究および設計です。海洋建築工学科ではウォーターフロントの都市・土木に関わる巨大なスケールから、親水空間におけるヒューマンスケールまで、広範なスケールの環境を設計対象としており、本研究室では、こうした環境への配慮を前提とした建築のあり方を「ランドスケープとしての建築」と捉え、その設計方法について研究室の皆で考えます。

本研究室では建築設計が好きであることはもちろん、建築が成立する環境・社会、建築を成立させるための論理について興味をもつ学生を歓迎します。共に学び成長しましょう。

●卒業研究のテーマ

設計か論文のどちらかを選び取り組みます。

【設計】

- ・環境や場所性を考慮したランドスケープとしての建築
- ・建築の保存・再生 など

卒業設計は壮大な自作自演の物語を紡ぐことだと考えます。物語の結末を鮮やかに描くまで推敲を重ねます。将来設計分野への就職を考えている学生は設計を取ることを推奨します。

【論文】

- ・建築家の言説に関する研究
- ・水辺環境に関する建築・都市の空間構成の研究
- ・建築における意匠と技術の関係に関する研究 など

建築や都市の形成に関わる仕組みについて研究します。建築意匠の知識と、仮説を立て検証し論理を構築する力を養います。

●ゼミナールのテーマ

- 1) 読書ゼミ：建築を設計するためには建築の歴史を知ることが欠かせません。主に近現代の建築、建築家について調べ、発表会をおこないます。

- 2) まち歩きゼミ：実際にまちを歩き建築作品やまちの環境、歴史について学び、懇親会をおこないます。
- 3) 図書館ゼミ：研究活動に関連する資料について建築専門誌を中心に調査し資料収集をおこないます。
- 4) 設計プロジェクト：設計コンペ、実施プロジェクトの機会があれば研究室で取り組みます。

●着手条件

研究室の説明会には必ず出席し個別面談を受けてください。また面談の際にはデザイン演習で制作した作品を2点以上持参してください。



建築作品1. 住宅



建築作品2. 遊戯施設

新任教員紹介

准教授 長谷川 洋平 (はせがわ・ようへい)

専門分野：建築意匠、建築設計、建築計画

略歴：2001年 日本大学理工学部建築学科 卒業

2004年 東京工業大学大学院理工学研究科
建築学専攻修士課程 修了

2023年 博士（工学）の学位取得（東京工業大学）

職歴：2004年 みかんぐみ（-2006年）

2007年 日本大学理工学部建築学科 助手（-2009年）

2009年 長谷川大輔構造計画（-現在）

2024年 日本大学理工学部海洋建築工学科

私は建築家が主宰するアトリエ設計事務所、建築学科助手を務めたあと、自身で建築意匠の設計活動と研究活動、また非常勤講師として設計製図等の指導をおこなってきました。大学院在籍時に研究室で応募した公共施設の設計コンペにおいて最優秀賞を受賞し竣工までプロジェクトに関わることができ、この機会に得た厳しくも楽しい経験がこれまでの活動の糧となっています。このたび研究室をもつことになり、研究、設計活動を通して学生時代でしか得られない熱のこもった経験を、みなさんと分かち合いたいと思っています。よろしくお願いたします。

医療・福祉建築計画研究室

1365室

Teaching Staff

准教授
江川 香奈

●研究室紹介

本研究室では、医療・福祉関連施設及び環境を中心に、利用者の潜在的な内容も含めたニーズや利用状況等を把握、分析し、今後の望ましい施設設計に資する知見を得ることを目的とした研究・設計活動を行います。一方で、近年は水害を含む様々な災害が頻発しており、近々の災害発生も複数予測されています。このため、平常時だけでなく、災害発生後の建物の使用、及びその施設での業務継続を考慮した施設設計・計画に関する研究も並行して行います（掲載写真参照）。

●ゼミナールのテーマ

医療・福祉環境を中心とした設計及び計画学に有用な基礎力を滋養するために、資料と実地の両面から多角的に知見を修得する内容を実践します。前期は関連知識に関する座学、医療・福祉関連施設の見学会と見学レポート発表会、シンポジウム参加等を予定しています。後期は、調査研究の考案と実施、分析を行い、成果は4年次に学会で発表します。

●卒業研究のテーマ

医療福祉関連施設・環境を対象とし、水辺に関わる場所の立地、水を使用する環境・設備、施設における災害対策等に関わる建築計画学の研究または設計提案を予定しています。どちらかを選択し、それぞれの内容に沿ったスケジュールで進めます。

【建築計画学に関する研究のテーマ例】

- ・災害時に対応可能な医療・福祉施設の建築計画に関する研究
- ・医療・福祉施設の水辺を含む癒しの環境づくりに関する研究
- ・温泉利用型健康増進施設に関する研究
- ・高齢者の利用を考慮した大規模集合住宅の親水空間を有する共用施設に関する研究

【設計提案のテーマ例】

- ・親水緑地を有する“地域”と“福祉”のシェアパーク

- ・水路空間を活用した医療型商店街
- ・地域の自然と過ごす病氣と闘う家族のためのセカンドハウス
- ・オリンピック公園に隣接する防災複合施設

研究の
キーワード

医療・福祉施設のデザイン／沿岸域の公共施設／自治体と協同する防災計画／心理・行動ニーズに基づいたインテリア・建築デザイン

上記のテーマ以外でも実施できます。各自の意向、興味のある内容・分野をご相談ください。卒業研究の内容を実践的側面から探究するために、現地で調査活動に取り組むことができる環境を整備します。また利用者のニーズや利用状況等を的確に把握、分析する研究手法・論文の構成手法を考案できる力を養成します。

●着手条件

医療福祉関連の施設・空間、子ども、高齢者を考慮した施設デザイン等に興味がある学生は、ぜひ研究室に相談に来てください。大学院進学希望についても相談時にお伝えください。



研究成果をまとめた医療施設の災害対策マニュアル

新任教員紹介

准教授 江川 香奈 (えがわ・かな)

専門分野：施設設計、建築計画、医療・福祉環境

略歴：2000年 工学院大学工学部建築学科 卒業
2002年 東京電機大学大学院工学研究科 建築学専攻修士課程 修了
2012年 工学院大学大学院工学研究科 建築学専攻博士後期課程 修了
職歴：2002年 株式会社 伊藤喜三郎建築研究所 (-2008年)
2012年 東京電機大学情報環境学部 情報環境学科 助教 (-2019年)
2017年 文化学園大学造形学部 非常勤講師 (-現在)
2019年 東京電機大学理工学部 建築・都市環境学系 助教 (-2023年)
2024年 日本大学理工学部海洋建築工学科

私はこれまで医療・福祉環境を主対象とした設計事務所での実務経験、大学での教育・研究活動を行ってきました。皆さんと研究室等での活動を通じて、多角的に思考し、独自性をもつ付加価値のあるデザインや提案を考案できれば幸いです。また、東日本震災前から行ってきた災害対策に関する研究経験を活かし、海洋及び沿岸域に立地する平常時も災害時も快適な施設計画に関する教育・研究を進める所存です。どうぞよろしく願い致します。

海洋建築・建築デザイン研究室

1352 室



●研究室紹介

当研究室は、水と都市、建築、生活の観点から、生活環境の質的向上に資する水辺空間や海洋建築の計画的知見を得るための研究を行っています。

< 研究活動 >

都市・建築・生活と水との関係を観察できる現地調査を重視し、都市部から農村部にかけての多様な水環境の調査を行います。そのため、「歩く・見る・考える・伝える」チカラの修得を重視し、研究テーマに関する理解増進や興味・関心を深めるための活動を行っています。研究成果は各種学会や地域イベント等においてプレゼンテーションを行い、他大学の研究者・学生や行政、企業、地域住民の方々との意見交流を図ることで、更なる研究の視点のブラッシュアップに取り組んでいます。

< プロジェクト >

地域連携による都市部を中心とした水辺空間の利活用に向けたリサーチや計画提案に取り組んでいます。水辺空間の利用管理に関わる多様なプレーヤー（行政、企業、住民組織等）との協働や交流を通して、まちづくり・ものづくりに対する多角的な考え方を養うことを重視しています。

< 卒業後の進路 >

主に建設業、建設コンサルタント、公務員等、建築・地域

計画の川上側に携わる仕事や建設現場の最前線で活躍する仕事等に就職しています。研究室では、最前線で活躍する企業の方々に講演いただくキャリアセミナーを定期的で開催しており、企業の方々との交流を通して学生自身の将来的なキャリアを考える機会をもうけています。

●ゼミナールのテーマ

ゼミナールでは、前期では都市・地域・建築計画に対する思考力・表現力・プレゼンテーション力の修得に向けたゼミ課題を実施します。後期ではゼミ論の執筆を通して、自身の興味関心の掘り下げと研究論文の基本的な考え方を学びます。また、各種プロジェクトへの参加を通して、水辺のまちづくりの現場で大切にされていること、どのような主体が関わっているのか、どのような課題があるのかなどを実際的に学びます。

●卒業研究のテーマ

- ・都市の水辺の賑わい創出に関する研究
- ・港湾・漁港施設の現代的活用方策に関する研究
- ・地方都市や農漁村の地域活性化に関する研究
- ・水害常襲地域の地域・建築的対応に関する研究
- ・沿岸・港湾地域の地域形成過程に関する研究
- ・都市型水面の活用に資する建築デザイン

●主なプロジェクトテーマ（令和5年度）

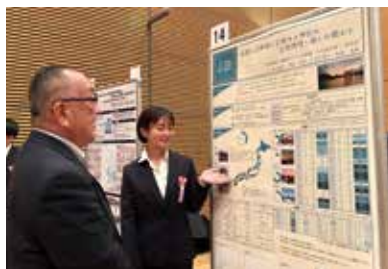
- ・品川区天王洲地区の水辺の賑わい創出の実践と検証（エリアマネジメント組織・品川区との連携）
- ・江東区の内部河川及び隅田川の水辺の賑わい創出に向けた実践と発信（地域組織・江東区との連携）
- ・造船 Dock 跡地の利活用に向けた歴史的価値の検証（建設コンサルタント・横須賀市との連携）

●着手条件

研究室説明会には必ず出席し、個別面談を受けてください。研究室の学生との面談もいつでも OK です。なお、研究室内の意匠系在籍学生は引き続き特任教授・小林直明先生が指導します。



水辺の建築の実測調査



学術講演会での研究発表



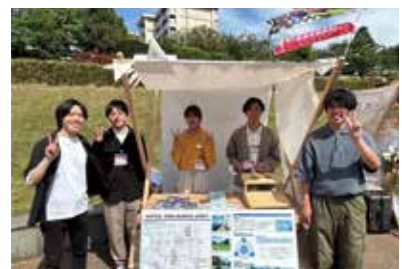
湧水地域のまち歩き（三島市）



ゼミ合宿での建築・水辺探訪



水辺の賑わいづくり（横浜市）



リサーチ成果発表（隅田川マルシェ）

ウォーターフロント都市工学研究室

1334 室



●研究室紹介

卒業するまでに、次の3つのスキルを身につけることを研究室の目標にしています。

- (1) 社会人として最も大切なのは時間を守り有効に使うことです。ゼミで最初に学ぶのは「時間の管理」です。時間を把握し、主体的に管理し、破綻のないスケジュールングを計画・実践する技術を身につけます。
- (2) ゼミ論や卒研のテーマは、自分の好きなことで挑戦できます。問題だと感じていること、将来、社会で必要になってくることを考え、自らが提案します。計画や企画・開発の分野で就職を目指す人は、社会を観察し、「ニーズを掘り起こす能力」が必要だからです。
- (3) どんなに優れた研究でも人に上手に伝えることができなければ価値を認めてもらえません。自分の言葉で、わかりやすく、決められた時間内で、興味を引き飽きさせない「プレゼンテーション力」を養います。

●ゼミナール活動

前期は、時間の管理や就活に向けた座学と、三番瀬やWFの見学会を実施します。7月～12月末までの約半年間はゼミナール研究論文を作成し、成果は学会で発表します。本研究室では、ゼミ・卒研共に学生自身でテーマを企画、実行してもらいます。過去の卒業生の数だけテーマがあるので、研究のバリエーションの豊富さも本研究室の特徴です。学生の学会発表状況などは、本誌各研究室紹介の後に続く「教員研究業績・研究室活動業績」をご覧ください。

●2023年度のゼミナール研究論文テーマ

- 井田帆南：WFの空き家の有効活用実態の調査
 江口 楓：河川におけるライフジャケットの利用促進策の検討
 草野真司：水上バイクに関する条例・自主ルールの整備状況の把握
 高橋志温：大型集客施設における混雑緩和策としてのWF空間利用状況の調査
 芦ヶ原治希：放置艇対策の有効性に関する調査
 秋吉佳乃子：運河・河川に面する建築物の水辺側ファサードの調査
 丸山愛未：サーフィン空間整備による地域への影響とまちおこし効果についての調査



ゼミ合宿（関西WF周遊）



ゼミ生発表会の様子

●過去の卒業研究論文テーマ例

- (A) ウォーターフロントを快適利用する環境整備
- ・WFの住宅を選ぶ住民の居住環境意識
 - ・調整池の市民開放と多目的利用に向けた方策
 - ・ペット専用ビーチの整備と運営手法
 - ・WFの特性に配慮した公衆トイレのデザイン
- (B) ウォーターフロントの景観計画とデザイン
- ・港湾倉庫の歴史を継承するための動態保存策
 - ・水辺景観を向上させる保存船舶の展示方法
 - ・要塞跡・砲台跡の利活用方針
 - ・SNS投稿内容からみた観光客の興味対象の分析
- (C) ウォーターフロントの開発と有効利用
- ・漁港や港湾を活用した沿岸部の地域振興方策
 - ・浮体施設の建造に伴う法規制の研究
 - ・灯台の地域資源としての価値評価と保存活用方法
 - ・WFに立地するワーケーション施設の整備実態
- (D) ウォーターフロントの減災対策
- ・災害時の孤立化地域における船舶による支援
 - ・津波避難ビルの建築を誘導する条例・制度内容
 - ・海水浴場などマリレジャー施設の津波避難計画
 - ・市町村連携による避難困難地区の解消方法
- ※研究室に過去のリストがあるのでぜひみてください

●主な年間行事（③④の学会発表は4年生以上）

- ① WF見学会・ゼミ生歓迎会（5月）、②三番瀬体験散策会（6月）、③日本沿岸域学会研究討論会での発表（7月）、④日本建築学会大会での発表（8月）、⑤夏季研修旅行（9月）、⑥日本大学理工学部学術講演会での発表（12月）、⑦ゼミナール研究論文発表会（12月）、⑧研究室卒研発表会（2月）

●着手条件

研究室説明会に必ず出席し、個人面談を受けてください。研究活動では自分の目で見て感じたことや興味・疑問を持ったことからテーマを決めるので、本研究室のフィールドに興味があり、現地に出向くことや体験することが好きな人が好ましいです。なお、基礎知識として、ウォーターフロント計画Ⅰ・Ⅱ、建築法規などの科目を履修していることが望ましいです。

興味を持ったらまずは教員や研究室の学生に話を聞いてみてください！

海洋空間利用工学研究室

1341 室

Teaching Staff



教授
居駒 知樹



助手
譚 雷

●研究室紹介

当研究室は海洋空間を幅広く利用することを目的とし、必要な海洋工学技術全般に関わる全ての情報収集と設計アドバイス、共同研究を多なっています。最も得意とするのは、浮体式構造物を始めとする海洋構造物の波浪中での耐航性能やその評価であり、またその方法の開発や新規技術の提案を行っています。具体的な対象として海洋再生可能エネルギーと海洋資源利用に関わる技術を扱うことが多くなります。設計に至るまでの予測技術が確立されていない、または現象そのものが理解されていないなどの問題や課題を解決する研究を行っています。最近では潮流発電用風車、風力発電用風車等のシステムについて、浮体形状の提案を含めて行っています。また、波力発電では振動水柱型を主に世界で勝負できるシステムを提案し性能のさらなる向上を目指しています。ブラジルのサンパウロ大学と共同して海上都市の提案と技術課題の解決、大規模海洋石油生産システムの研究なども行います。その他の海外の大学(スコットランド、中国)との共同研究は希望する学生を待っている状況です。当研究室は理論計算、数値計算、水槽実験を全て駆使して研究しています。

●卒業研究のテーマ

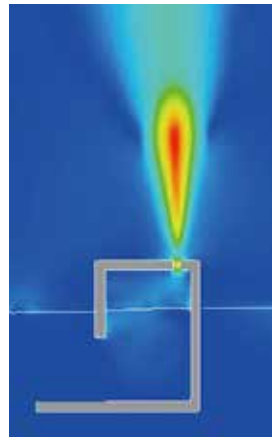
- ① 浮体式垂直軸型風車のタービン性能と耐波浪性能からみた実現可能性の検討
- ② コンクリート製浮体式洋上風車システムの波浪中性能評価
- ③ 浮体式波力発電装置の高性能化と理論および数値解析法の開発
- ④ 浮体式垂直軸型潮流発電の実用化と性能評価
- ⑤ 太陽光発電用浮体システムの提案と波浪中性能評価
- ⑥ 大水深掘削技術に関わる流体現象の解明
- ⑦ 海上都市構想などの大規模浮体システムの提案と解析技術開発

●ゼミナール活動

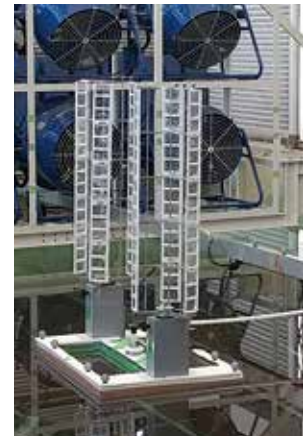
- ・ 海洋再生可能エネルギーや海洋開発全般を取り巻く現状についての講義
- ・ プロミラングによる数値解析法に関する講義
- ・ 波の基本特性に関する水槽実験
- ・ ラズベリーパイを用いた電子工作
- ・ Fusion360 を用いた浮体模型の設計
- ・ 3D プリンターを用いた浮体模型の製作および水槽実験+数値計算による挙動推定

●着手条件

建築人材として海洋工学的な問題・課題解決に携わりたいと強く思えること、またそのための気力と体力のある学生を求めています。大学院への進学希望者を歓迎します。浮体式構造物を利用した海洋空間利用の提案と研究をやりたい人、世界の中でこの分野に関わりたい人、歓迎。研究室での説明希望者・相談、随時受け付けます。



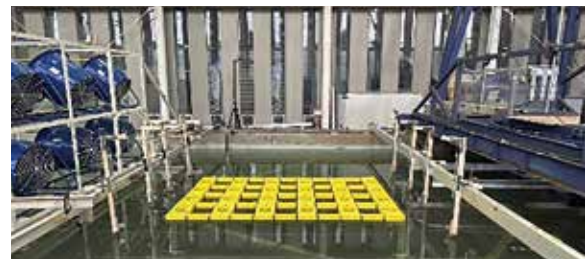
振動水柱型波力発電装置の開発



浮体式ツイーン垂直軸型風車の開発



浮体式可変ピッチ VAMT の開発と実海域実験



浮体式太陽光発電や海上都市計画に応用される浮体技術研究



大水深掘削技術に関わる回転円柱の水槽実験

海洋構造デザイン研究室

1345 室



研究員の学生達と行った夏合宿
(千葉県 安房鴨川)

Teaching Staff



准教授
恵藤 浩樹

●研究室紹介

『海の“チカラ”で未来はもっと素敵になる』というコンセプトのもと、新しい価値を有する海洋建築物を提案し、海洋建築物の実現に向け技術的な課題を解決する研究活動を展開しています。「海」や「構造物」が持つ価値を最大限に発揮するデザインを考え、検証と改善を繰り返しくオリティの高いものを生み出す「デザイン思考」を身に付けられるよう、皆で“楽しく”学べる研究室を君達と一緒に創れたらと考えています！

<研究室の主な年間行事予定>

①ゼミ生歓迎会(4月末予定)、②卒研・修論中間報告会(夏季)、③夏合宿(9月)、④卒研・修論最終報告会+打ち上げ(2月)、⑤卒業式

●卒業研究のテーマ

「海」を利用した新しい価値、新しい社会を構築する海洋建築物を提案し、海の作用を直接受けるそれらの実現に必要な設計関連技術の全てが研究対象です。

- 1) 新しいコンセプトを持つ海洋建築物の提案とその実現可能性に関する技術的な検討
- 2) 係留システムを含めた大型浮体式海洋建築物の波浪中応答解析や構造解析による各種性能評価
- 3) 浮体式の垂直軸型風車や交差軸型風車に作用する風荷重解

析と風や波、潮流などによる動揺問題

- 4) 粒子法 (SPH 法) による閉鎖された水域に浮かぶ浮体式構造物の地震動に伴うスロッシング解析
- 5) ハイブリッドケーソン (HBC) 式防波堤のフーチングに作用する圧力評価と HBC 設計法の確立
- 6) 没水平板による波高増幅効果に関する研究 など

●ゼミナールのテーマ

卒業研究や就職活動、大学院生活で役立つ、海洋や建築物の基礎がしっかりと身に付く学習を行います。

- 1) 海洋建築物に関する基礎的な知識を深めます
- 2) PC スキル (レポート作成、プレゼンテーション、CAD によるモデリング、GIS など) を鍛えます
- 3) プログラミングを基礎の基礎から学び、また研究で扱うソフトウェアの講習を通して、簡単な構造解析ならプログラミングできるような基礎的な数値シミュレーション能力が身に付きます

●着手条件

「海洋建築」が大好きな人を募集、必要な知識やスキルは研究室所属後に学ぶため特に条件は設けません。興味があれば説明会に必ず出席し、研究室で個別面談(教員や所属学生との雑談)を受けて下さい。

最新情報は
こちら



Web



Instagram

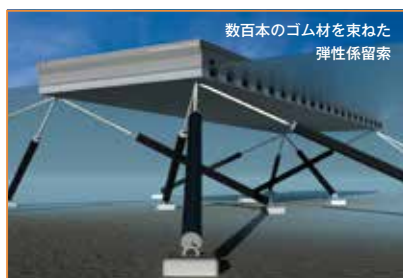


Facebook

Web : <https://etohiroaki4.wixsite.com/labo> (PC での閲覧を推奨)

Instagram : https://www.instagram.com/marine_structural_design_lab/

Facebook : <https://www.facebook.com/msdl.nu/>



数百本のゴム材を束ねた
弾性係留索

大型浮体を固定する弾性係留システムの設計

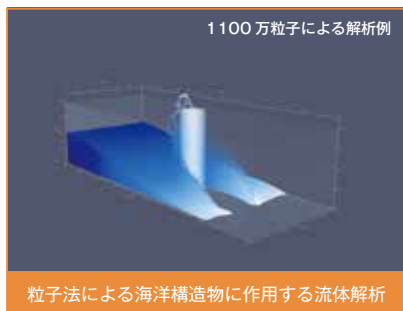


風力発電で得た電力を H₂ (水素) に変換

深海を活用した
次世代水素エネルギー生産施設の提案

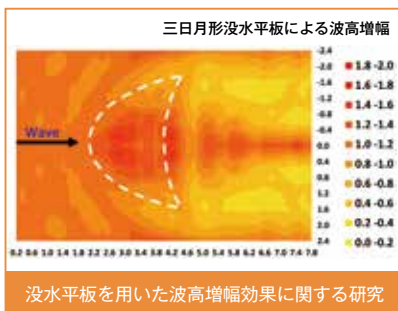


垂直軸型浮体式洋上風力発電施設の設計



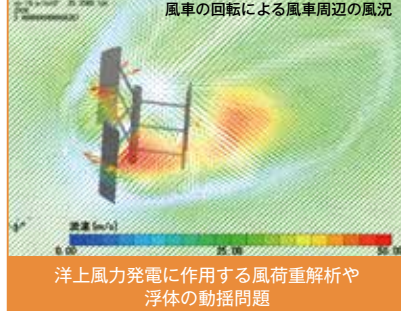
1100 万粒子による解析例

粒子法による海洋構造物に作用する流体解析



三日形没水平板による波高増幅

没水平板を用いた波高増幅効果に関する研究



風車の回転による風車周辺の風況

洋上風力発電に作用する風荷重解析や
浮体の動揺問題

海洋物理・計算工学研究室

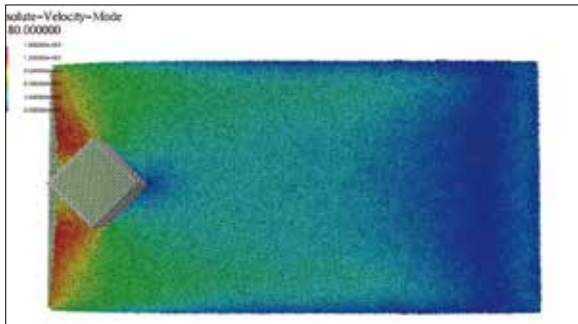
1342 室



●研究室紹介

当研究室は、波や流れが海洋建築物や海洋構造物にどのように影響を与えるかについて、数値流体力学（CFD）的手法を駆使して解き明かすことを主なテーマとした研究室です。波浪や津波によって構造物にどのような力が作用するのか、浮体構造物はどのように運動するのか、浮体構造物が建築物や構造物に衝突した際にどのような力が作用するのかなど、構造物とそれを取りまく流体をコンピューター上で再現し、実験とも比較しながら振舞いを明らかにすることに取り組んでいます。また、日本の沿岸の波浪の性質や、長期的な波高の変動予測高波の発生メカニズムや、太平洋を伝播する津波の再現、さらに発展して津波避難経路を算出し避難中の津波遭遇を再現するシミュレーターの開発など、波や流れに関することなら全てが研究テーマです。

研究室の活動は、ゼミナール、卒業研究発表会、懇親会などを予定しています。



建築物周りの津波流れ場の再現シミュレーション



日本に襲来した台風の経路ヒートマップ

研究のキーワード 数値流体力学、流体解析、浮体挙動、津波防災・減災、強非線形海洋波

●ゼミナールのテーマ

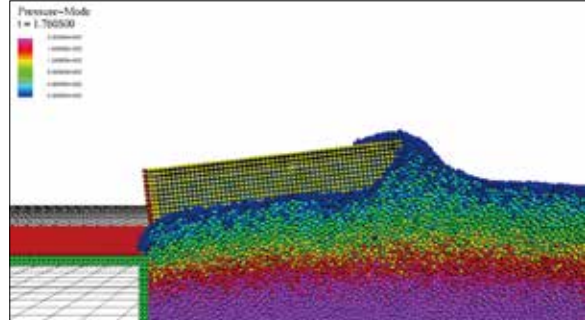
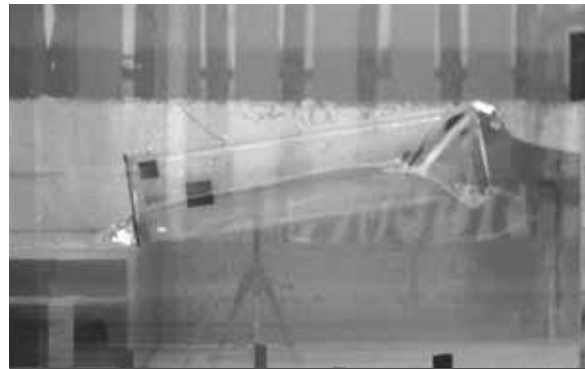
ゼミナールでは、卒業研究に必要な知識の基礎を演習形式で修得します。3年生の段階で、シミュレーションの基礎を演習と講義を通じて理解し扱えるようにするとともに、水槽実験の基礎や、水波工学の基礎から応用について修得していきます。

●卒業研究のテーマ

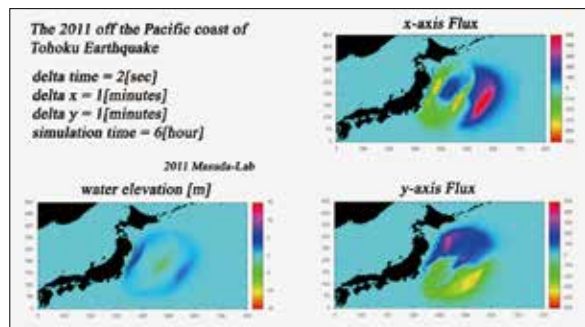
各自の意向に基づき卒業研究を選択して実施します。また、取り組んでみたい研究テーマがあれば、相談可能です。

●着手条件

特に条件は設定しない。海洋の波や流れ、数値シミュレーションに興味のある学生を歓迎します。是非、研究室へ相談に来て下さい。



浮体式構造物の乗り上がりシミュレーション



東北地方太平洋沖地震津波の再現シミュレーション

構造工学研究室

1361 室

Teaching Staff



教授
北嶋 圭二

●研究室紹介

北嶋研究室では、沿岸域の陸上建築物から氷海域の海洋構造物まで、設置場所や構造種別にとらわれず、幅広い建築構造物を対象に「より高度で合理的な構造システム」に着目して研究を行っています。

当研究室での研究の特徴は、大型構造物試験センターや環境・防災都市共同研究センターの大型・最新実験設備を用いた、“建築構造システム”および“建築構造部材の構造性能”に関する実験的研究が多いことです。これまでに世界的にも例の少ない大型構造実験を数多く実施してきました(写真1)。

また、建物の耐震性能評価や制震構造設計法の開発のために、弾塑性地震応答解析などコンピューターによるシミュレーション技術を用いた解析的研究も数多く行っています。その他、テクノスペース 15 に設置されている低温実験室の氷海水槽を用いた実験的研究も行っています。

建築構造工学に軸足を置き、海洋構造物ほか幅広い分野を対象に研究を行っています。

●主要な研究テーマ

1. 鉄筋コンクリート(RC) 建造物の耐震性能に関する研究

- 1-1 損傷低減のための耐震設計法並びに制震補強技術に関する研究
- 1-2 構造ヘルスマonitoringシステムに関する研究・開発
- 1-3 超高層 RC 建造物の柱梁接合部の構造性能に関する研究
- 1-4 海外の RC 建造物の耐震規定に関する調査・研究 etc

2. 合理的な耐震構造システムに関する研究・開発

- 2-1 次世代制震構造システムに関する研究・開発
- 2-2 滑り基礎構造システムに関する研究(写真2)
- 2-3 折返しブレースを用いた構造システムに関する研究(写真3)
- 2-4 制震構造建造物の性能評価法および設計法に関する研究



写真1 大型構造物試験センターでの構造実験



写真2 滑り基礎構造建造物の振動台実験



写真3 折返しブレースの取付状況



写真4 3Dプリンターで製作した試験体の構造実験

- 2-5 間柱型レンズダンパーの研究・開発
- 2-6 構造実験における 3D プリンターの利活用方法に関する研究(写真4) etc

3. 海洋建築物の構造性能に関する研究

- 3-1 津波漂流物の衝突に関する研究
- 3-2 氷海構造物の氷荷重評価と応答性状に関する研究
- 3-3 海底地すべりに関する実験的研究
- 3-4 海洋建築物の設計指針策定に関する調査・研究 etc

4. その他、企業からの受託研究など

1-1 の制震補強技術は既に 100 棟以上の実施適用例があり、実際の地震防災対策に大いに役立っています。2-3 の折返しブレースや 2-5 のレンズダンパーのテーマも既に実施例が数例あり、合理的な構造システムとして注目されています。その他のテーマについても、研究成果を論文発表というかたちで情報発信することにより、構造技術の発展に貢献しています。

●卒業研究のテーマ

上記主要研究テーマをベースに、卒研生の意向を聞いて卒研テーマを設定しています。

●ゼミナールのテーマ

自由課題：建築構造物・海洋構造物の小型模型実験

前期は基礎的な力学の勉強会を行います。また、海洋構造物や陸上建築構造物に対して興味や疑問に思っていることを確かめるために、自分たちでテーマを決めて小型模型実験を実施します。実験は学部祭にて公開します。

●着手条件

構造に興味があり探究心旺盛で、研究に関する労力を惜しまない人を歓迎します。

コンクリート構造工学研究室

1366 室

Teaching Staff



教授
福井 剛



助教
柴山 淳

●研究室紹介

< 研究のこと >

私たちの研究室では、建築構造及び材料Ⅱで学んだプレストレストコンクリート（以下 PC）構造の設計法を開発しています。PC 構造は、①耐久性が極めて高く、②大スパン構造を作ることができ、③優れた復元性があるため耐震性にも優れています。これらの特性を活かして、東京スカイツリーの心柱などの飛び抜けた高性能が要求される構造体や、オリンピック競技施設といったデザイン性を求められる建物などに広く使われています。

< 研究室の雰囲気 >

私たちは、研究を円滑に進めるためにはリラックスした雰囲気が不可欠であり、研究室では教員と学生がお互いにフランクに話し合えるような場にしたいと考えています。ただし、ここぞと言うときは真剣勝負です。

< 年間行事 >

①顔合わせ会：全員で親睦会。②夏合宿研究発表会：中間研究成果発表会です。発表終了後は無礼講タイム。③実験仕上げ：無事故と研究成果を祝うための行事。④ほか：めでたいことがあれば適宜。

●ゼミナールのテーマ

卒研をスムーズに始める準備をします。以下のテーマから2つ以上を選択。①コンピュータプログラミングによる構造計算トレーニング ②構造力学およびコンクリート構造の勉強会 ③コンピュータスキル (CAD、エクセル、パワーポイント) の修得

●卒業研究のテーマ

- 1) PC 部材のせん断抵抗機構
 - 2) 長期荷重が PC 造建物の地震後の性能に及ぼす影響
 - 3) PCaPC 圧着継目の滑り破壊耐力に対する設計法
 - 4) 環境に優しい次世代コンクリート材料の開発
 - 5) AI を活用したコンクリートの性能評価法の開発
- テーマにより実験、解析または両方のアプローチで研究を進めます。

●着手条件

ゼミに欠席しないこと。卒研に没頭すること。研究内容と研究室の雰囲気に馴染めることを確認するために研究室訪問で院生や教員と話をしましょう。

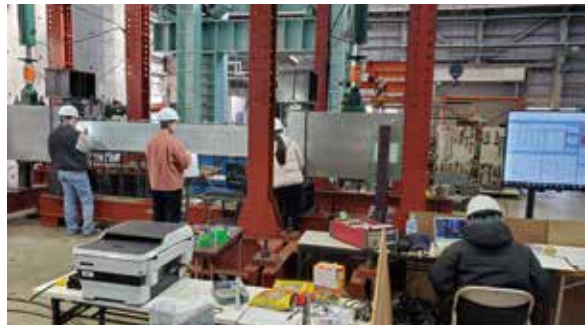


写真 1 PC 梁の載荷試験

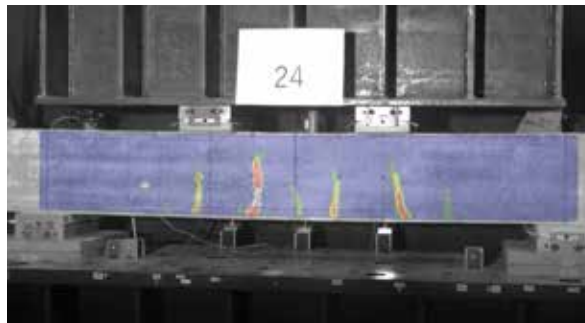


図 1 画像解析によるコンクリートひび割れの可視化

新任教員紹介

助教 柴山 淳 (しばやま・あつし)

専門分野：次世代コンクリート材料の開発、構造解析・先端計測技術を用いたコンクリート構造物の性能評価、手法の開発、データサイエンスを活用した新たなコンクリート設計法の開発

略歴：2014 年 3 月 京都大学大学院工学研究科建築学専攻 修了

2014 年 4 月 一般財団法人電力中央研究所 入所

2022 年 3 月 京都大学より博士 (工学) の学位を授与

2024 年 3 月 一般財団法人電力中央研究所 退所

2024 年 4 月 日本大学に着任

卒業研究で取り組んだプレストレストコンクリート構造に魅了され、研究者の道を志しました。電力中央研究所では、主にコンクリート構造物の耐津波および耐震性能評価手法の開発に従事し、数多くの構造実験と解析に取り組みました。構造実験においては、音や光、画像を活用した最先端の計測技術も活用してきました。これからの構造物は、単に自然災害に「強い」だけではなく、環境に「優しい」材料で構成されることが重要です。コンクリートの魅力のひとつは、材料のレシピを自在に設計できるパリエーションの多さにあります。産業副産物の有効利用と CO₂ 排出量削減の両立を可能にする、新たなコンクリートの開発にも取り組んでいます。興味があれば、研究室に話を聞きに来て下さい。歓迎します。

建築構法研究室

1346 室

Teaching Staff



教授
高橋 孝二

●研究室紹介

日本国内で震度7を記録した大地震（阪神淡路大震災、東日本大震災など）が、この30年で実に6回も発生しています。まさに本国は地震活動期の真っ只中にあります。また、ここ最近では地球温暖化の影響とされる想定を遥かに超えた風雨により、数多くの災害が発生しています。これら自然災害に対する防災・減災技術への貢献は、海洋建築工学科の大きな使命の一つであります。

本研究室では、「地震に強い建築」を目的に、主に耐震構造としての要求性能が高い超高層建築物や大規模な空間構造に関する研究を行います。さらに、研究室では木質構造も取り上げます。近年、国内の森林資源の有効活用や持続可能な開発目標（SDGs）への対応として中大規模木造建築物への期待が高まっていることから、木造建築の高層化実現のための研究に取り組んでいます。

●ゼミナールの内容

3年生で履修する「構造解析」や「振動工学」の知識をさらに深めてもらうため、平面フレームの構造解析や質点系の時刻歴応答解析の簡単なプログラミングを実施します。自分で実際にプログラムを作成することにより、理解が深まり卒論や修論の研究にも役立ちます。また、自分が取り組む卒論テーマの基礎知識を身に付けるために、専門書を読み合わせる等の学修を中心に行います。夏には、合宿にて卒研生の中間発表やゼミ生の課題発表（自分が好きな建築物の構造を調べる等）を行っています（写真1）。

●卒業研究のテーマ

卒業研究では、以下のような構造に関するテーマに取り組んでいます。建築構造に関わるテーマなら学生自身で選定しても構いません。

1)鉄筋コンクリート構造

- ・部材の構造性能（写真2）や超高層の耐震設計に関わる課題を対象
- ・超高層プレキャスト工法に関する研究（写真3）

2)空間構造

- ・スタジアムに代表されるカンチレバー屋根の地震時応答性状に関する基礎的研究（図1）

3)木質構造

- ・多層木質純ラーメン構造の研究（図2）
- ・伝統木造建築の耐震性能に関する研究

4)設備機器の耐震

- ・設備機器の耐震設計に関する研究

●着手条件

1年生、2年生で学んだ構造力学の授業や実験が「おもしろいな」と思った学生なら問題ありません。将来、構造に関わる仕事（構造設計や研究開発）や施工管理を目指そうと思っている学生を歓迎します。

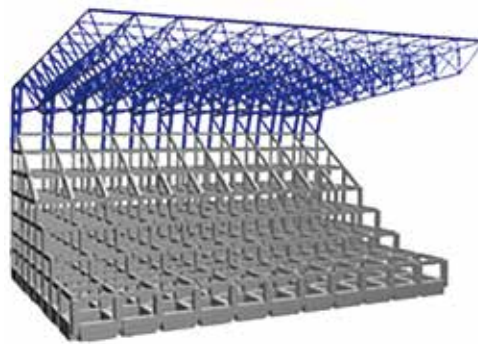


図1 スタジアムの解析モデル



図2 多層木質構造の解析モデル



写真1 夏合宿



写真2 袖壁付き柱の構造実験



写真3 プレキャスト工法

沿岸環境防災研究室

1335 室

Teaching Staff

教授
星上 幸良特任教授
小林 昭男

●研究室紹介

本研究室では、「沿岸域での防災と環境保全の両立」を基本テーマとして、海岸付近の物理・自然環境と人との係わりについて考究することを目的としています。

そのため「現場を把握する」ことを重視し、様々なフィールドを観察し、地域を学び、物事の意味を理解することからはじめます。また、民間コンサルの経験を活かし、研究やワークショップを通じプレゼン能力やマネジメント力、課題解決力等を鍛え、実社会で活躍できる人材育成を行います。さらに、地域や事業と連携した実際的な研究活動を通して、高度な専門性だけでなく、広い視野と客観性、バランス感覚を養います。

●ゼミナールのテーマ

ゼミナールでは、就活・進学のアドバイスに加えて、「ゼミ研」を通じ、卒業研究や実社会での活動に役立つ基礎的な素養を身に着けます。

- ・調査に参加し、現場の見方や環境問題を学びます
- ・広い視野と客観性を会得します
- ・コミュニケーション能力を向上させます
- ・バランス感覚と倫理観を育てます
- ・時間の使い方（マネジメント力）を学びます
- ・プレゼン能力を鍛えます
- ・実環境に触れ、問題と課題を学びます



フィールドワークの様子



沿岸域工学研究室との合同ゼミの様子

- ・防災、災害リスクについて正しく理解できます
- ・資格取得を支援します

●卒業研究のテーマ

国内外で課題を抱える沿岸域のフィールドを対象とし、以下のテーマで調査・研究を進めます。

【良好な環境保全を目指して：海岸侵食・環境計測】

- ・沿岸域での物理と環境に関する研究
- ・人為的要因による環境影響に関する研究
- ・ドローン等を活用した環境計測に関する研究

【安全安心な沿岸域を創造する：津波防災・高潮対策】

- ・沿岸域での災害リスクに関する研究
- ・海岸保全の在り方や評価に関する研究
- ・沿岸の地域知、合意形成に関する研究

●着手条件

沿岸の環境保全や防災に興味のある学生、将来、ゼネコンや調査会社、コンサルタントへの就職を志望する学生、海や沿岸に“愛”のある学生なら、誰でもゼミナール・卒研に着手できます。



震災復興状況調査写真



ドローンを活用した調査の様子



▲星上研 youtube
チャンネルは
こちら！



星上研 Instagram は
こちら！▶

HOSHIGAMIKEN.OFFICIAL

令和6年度

大学院情報

海洋建築工学専攻では、以下の4つの科目群（環境系・計画系・構造系・総合）からなる授業科目と、4つの特別研究（海洋環境工学・海洋空間利用計画・海洋建築構造工学・海洋建築工学）からなる研究領域について、専門教員が指導します。

海洋建築工学専攻 履修モデル

科目群	< 学部関連科目 > (参考)	博士前期課程 1年次		博士前期課程 2年次	
		前期	後期	前期	後期
環境系	海洋環境工学	海洋環境工学特論Ⅰ (海洋物理環境)	海洋環境工学特論Ⅱ (海洋化学生物環境)	海洋環境工学特別研究 海洋空間利用計画特別研究 海洋建築構造工学特別研究 海洋建築工学特別研究 ※上記特別研究は、下表の 専門教員が指導します。	
	海洋環境アセスメント	海洋システム工学特論	海洋環境マネジメント特論		
	海洋及び環境計測	海洋計測工学特論			
	水波工学	水波工学特論			
計画系	建築計画/海洋施設計画/ 親水空間計画	海洋建築計画特論	親水環境計画特論		
	デザイン演習	海洋建築デザイン特論	海洋建築ユニバーサル デザイン特論		
	海洋空間計画と関連法規/ ウォーターフロント計画	港湾空間計画特論	ウォーターフロント計画特論		
	海洋資源と開発技術/防災安全工学	海洋空間利用計画特論	沿岸防災計画特論		
構造系	構造力学/構造解析/振動工学/鋼構造	耐震構造設計特論	応答制御構造設計特論		
	建築施工法/コンクリート構造	海洋建築構造工学特論Ⅰ (構造システム工学)	コンクリート構造工学特論		
	地盤環境工学/防災安全工学	地盤基礎工学特論	海洋建築構造工学特論Ⅱ (地震リスク評価)		
	浮体工学/海洋構造物の構造計画	浮体工学特論	海洋構造物設計特論		
	海洋建築の材料と施工法/沿岸域工学	海洋構造物建設特論	沿岸構造物設計特論		
総合		海洋建築技術者倫理	海洋建築プロジェクトマネジメント	海洋建築特別演習	
		計算工学特論Ⅰ(数値流体力学)	計算工学特論Ⅱ(連続体力学)		
		海洋建築情報システム工学特論	海洋建築工学特別講義Ⅰ (寄付講座)	海洋建築工学 特別講義Ⅱ	
		海洋建築インターンシップⅠ・Ⅱ			
		海洋工学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ			

大学院特別研究担当教員（博士前期課程）

授業科目	単位数	資格	学位の種類	担当教員	授業科目	単位数	資格	学位の種類	担当教員
海洋環境工学 特別研究	6	教授	博士(工学)	居駒 知樹	海洋建築工学 特別研究	6	教授	博士(工学)	福井 剛
		教授	博士(工学)	星上 幸良			教授	博士(工学)	北嶋 圭二
海洋空間利用計画 特別研究	6	教授	博士(工学)	居駒 知樹			教授	博士(工学)	居駒 知樹
		教授	博士(工学)	星上 幸良			教授	博士(工学)	星上 幸良
		准教授	博士(工学)	恵藤 浩朗			教授	博士(工学)	高橋 孝二
		准教授	博士(工学)	佐藤 信治			准教授	博士(工学)	恵藤 浩朗
		准教授	博士(工学)	山本 和清			准教授	博士(工学)	佐藤 信治
		准教授	博士(工学)	江川 香奈			准教授	博士(工学)	山本 和清
		准教授	博士(工学)	長谷川 洋平			准教授	博士(工学)	江川 香奈
		准教授	博士(工学)	相田 康洋			准教授	博士(工学)	長谷川 洋平
海洋建築構造工学 特別研究	6	教授	博士(工学)	北嶋 圭二			准教授	博士(工学)	相田 康洋
		教授	博士(工学)	福井 剛					
		教授	博士(工学)	高橋 孝二					

博士論文



修士論文



卒業論文・卒業設計

佐藤研究室

修士論文

- ◆太田優人 水運を活用した江戸川区の新庁舎の設計
～防災に特化した庁舎施設の提案
- ◆小林功基 水中遺跡の保存及び利活用に関する研究
～鷹島崎遺跡を対象とした複合研究リゾート施設の設計
- ◆関亮太 水素バンカリング拠点の提案
～シンガポール沖合における浮体式複合リゾート施設の設計

卒業論文

- ◆浅井駿来 絶海の未来航路
～宇宙輸送技術を活用した離島型宇宙港の提案
- ◆荒木陽哉 熊鷹穴
- ◆奥村碩人 習志野 軍事歴史館
- ◆柏木玲菜 旧柏そごうを音楽の聖地化への提案
- ◆熊本一希 享福の礎
- ◆櫻井彩音 衣服の行く先を変えていく
～衣服ロスの問題を街と結びつけ、新たな価値を再構築する提案
- ◆佐村拓郎 天狗の怒り
- ◆鈴木暖 町の減量方法
- ◆富永玲央 鉄の起水のアルリズム
～水素製鉄による排出水を用いた産業再編計画
- ◆仲澤和希 TSUSHIMA symbiosis project
～海洋プラごみの再生と観光拠点の共生の場
- ◆樋口大雅 海上円環都市
- ◆山口直也 OMO
～eスポーツの次なる段階へ
- ◆鈴木雄士 植物を受け止めプランターの役割を果たすこれからの都市

山本研究室

卒業論文

- ◆円入優貴 渚泊における外国人観光客獲得に関する研究
- ◆大塚龍人 福祉施設における津波対応型救命艇に関する調査研究
～南海トラフ地震津波避難対策特別強化地域を対象として
- ◆大橋賢志郎 マリーナにおけるビクトグラム整備の実態把握に関する調査研究
- ◆佐藤安純 水産高校における女性漁業就業者増加策に関する研究
～全国水産高校 46 校を対象地として
- ◆樽谷英俊 漁業集落における地域活性化のための祭り・祭礼のあり方に関する研究
- ◆柴田将樹 水害リスクを伴う市街化調整区域の水害対策に関する調査研究
- ◆片山和翔 未利用魚を活用した地域活性化策の検討に関する調査研究

海洋建築・建築デザイン研究室（菅原・小林）

修士論文

- ◆伊東龍哉 日本の林業の再生に資する複合型木造建築の提案
- ◆岡田祐成 本土近接型離島の観光客を対象とした観光ロイヤルティの形成要因
- ◆小林真子 2025年日本国際博覧会跡地計画
～観光立国における国際医療拠点の提案
- ◆齋藤瞬汰 千住郵便局電話事務室の改修
～水害地域において歴史的建造物の再生手法
- ◆佐藤大和 デジタルファブリケーションを用いた災害復興住宅の提案
- ◆津下純也 超高齢社会に備えた医療介護施設の提案
～地域や利用者との連携を誘発させる地域包括型病院
- ◆長谷部悠 CCUS 実現に向けた沿岸研究所の設計：知的生産性の向上を目指した研究施設の提案
- ◆渡邊愛 福島県富岡町における異業種のイノベーション型ヘッドオフィスの建築提案

卒業論文

- ◆大平梨音・橋爪海里 大橋書店
～清澄白河店
- ◆門谷采実 熄み、再び時が動き出す
- ◆金井和奏 敵し
～スラム街から世界中の兄弟姉妹と繋がる普遍的教会
- ◆黒坂龍乃介 商店街と夜街が結ぶ縁
～集約型都市構造における商店街のあり方
- ◆佐藤航太 甦生建築
～廃棄プラスチックゴミを用いた持続可能な建築設計の提案
- ◆玉木芹奈 Main
～できること
- ◆中島啓太 動的平衡建築
～残す継承から「そうぞう」する継承へ
- ◆中村光佑 邂逅する群雲
～都市のオリジナリティを保管し醸成するための提案
- ◆八阪柊吾 行徳寄生建築
～土木構造物がもたらした風景の均一化解消

◆藍野友輝

便所的パラサイト

～都市の排泄物をトイシの構成要素で再考する

◆石原汐莉

沿岸部に立地する神社を対象とした南海トラフ地震による津波被災リスクの実態と再建方策の検討

◆今市尚大

東京都臨海部における水辺の遊歩道と背後地の一体的整備に向けた方策検討

◆川上真平

東京都における背後地一体型船着場の利用促進に向けた船着場の利用状況と背後地との関係

◆川名神威

親水と浸水の両義的側面からみる河川空間利用の方策検討
～河川空間のオープン化事例を対象として

◆柳田嶺

岩手県沿岸部の漁業集落にみる東日本大震災前後の人口動態の傾向

◆岩田実優

都市河川の船舶混在を背景とした河川利用ルールの現状把握

◆小沼椋子

都市地域におけるため池の多目的利用に向けた地域組織の活動実態

◆高柳祐里

～大阪府オアシス整備事業を対象として

全国の競艇場水面の利用経緯と活用可能性の検討

ウォーターフロント都市工学研究室（寺口・桜井）

修士論文

- ◆五江洸佑真 小型船舶を活用した災害支援に関する研究
～全国沿岸の孤立化危険地域を対象として
- ◆佐藤友香 漁港空間の多目的利用に関する研究
～岩手県および宮城県を対象とした調査

卒業論文

- ◆石田大誠 海辺に立地するグランピング施設に関する研究
～製造業者と施設運営者を対象としたアンケート調査
- ◆河合泰誠 洋上風力発電施設の建設に対する漁業者の評価に関する研究
～漁業協同組合に対するアンケート調査結果
- ◆小松直純 津波避難シェルター普及促進に関する研究
～設置者の求める機能と利用想定について
- ◆齋藤友祐 災害から水族館の生物を守るための計画・対応策に関する研究
～全国の沿岸域に立地する水族館を対象として
- ◆佐瀬智之 防災船着場の認知とアクセス向上に関する研究
～都内の防災船着場を対象として
- ◆杉田祐将 海岸の管理運営に即した多目的利用の推進に関する研究
～全国の海水浴場を対象とした調査
- ◆鈴木陽斗 クルーズターミナルにおける多目的空間利用に関する研究
- ◆砂原光晴 防潮堤ウォールアートの効果と課題に関する研究
- ◆田中陽介 海水浴場における情報機器の利活用に関する研究
～日本全国の海水浴場を対象とした調査
- ◆谷原功祐 水上交通における雁木の有効活用に関する研究
～広島市中心市街地を対象として

居駒研究室

博士論文

- ◆鈴木雅洋 一様流れにおける回転円柱周りの流速場の性状に関する研究

修士論文

- ◆笹川遼 人間の認知と行動に基づく港まちづくりの領域に関する研究
～瀬戸内海離島を対象として
- ◆桑田愛理 浮体式PW-OWC型波力発電装置の運動特性と一次変換特性に与えるオリフィス負荷の影響に関する研究
- ◆寺崎哉人 浮体式洋上風力発電装置の基礎浮体としての波なし形状の適用性と応答特性に関する研究

卒業論文

- ◆阿部雄介 一様流中における線状構造物の回転が固有振動数の変動に与える影響に関する実験的研究
- ◆常睿遠 CFD 計算によるPW-OWC型波力発電装置の一次変換性能に関する研究
- ◆成田彩夏・千田悠斗 一点係留された可変ピッチ型垂直軸風車の振り回り運動に与える可変角の影響に関する実験的研究
～その1 ピッチ角の可変角幅の影響
- ◆千田悠斗・成田彩夏 一点係留された可変ピッチ型垂直軸風車の振り回り運動に与える可変角の影響に関する実験的研究
～その2 風速と周速比が風速追従運動に与える影響
- ◆高橋清那 都市機能移転のためのユニット連結型海上都市の波浪中挙動特性に関する基礎的研究
- ◆小瀬川哲也・水口山汰 浮体式太陽光発電用連結浮体の係留索張力および運動特性に関する実験的研究
～その1 規則波中における係留索張力特性について
- ◆水口山汰・小瀬川哲也 浮体式太陽光発電用連結浮体の係留索張力および運動特性に関する実験的研究
～その2 規則波中における運動特性について
- ◆鈴木元気 実海域試験による浮体式垂直軸型可変ピッチ翼水車の性能評価に関する研究

博士論文 + 修士論文 + 卒業論文・卒業設計

惠藤研究室

修士論文

- ◆木下龍太郎 粒子法による没水平板の波浪集波効果に関する基礎的研究
◆菅原幹将 弾性係留システムを適用した浮体式構造物の係留索諸元選定に関する基礎的研究
◆関口峻介 浮体式交差軸風車の起動特性および風荷重特性に関する基礎的研究
◆田村直輝 ハイブリッドケーソン式防波堤の揚圧力と抑圧力算定に関する基礎的研究

卒業論文

- ◆阿部文哉・船内格志 粒子法によるハイブリッドケーソンに作用する波圧の算定
◆紀藤菜桜・寺田拓海・葛西拓海 閉鎖水域のスロッシングに伴う浮体式構造物の運動応答
◆紀藤菜桜・寺田拓海・葛西拓海 閉鎖水域のスロッシングに伴う浮体式構造物の運動応答
◆佐々木晚成・西川由紀 粒子法による凸レンズ型没水平板の波浪集波効果
◆松下毅・四宮夕芽花 垂直軸型風車に作用する風荷重の特性把握
◆鈴木涉・野田有里子 弾性体の特性変化に伴う弾性係留システムの係留設計に関する基礎的研究
◆山川健介・加藤靖崇・須賀達樹 静止状態の浮体式交差軸型風車に作用する風荷重特性
◆山川健介・加藤靖崇・須賀達樹 静止状態の浮体式交差軸型風車に作用する風荷重特性
◆渡辺裕一朗 第7鉱区における石油・天然ガス開発に関する調査研究

北嶋研究室

修士論文

- ◆杉山浩隆 繰返し荷重下における折返しプレースの限界変形性能に関する研究
◆山田遊耶 滑り基礎構造建物の地震時挙動に関する研究

卒業論文

- ◆菊地優希・永吉琉莞・藤井廣大 既存アクチュエータを利用したスプリング式共振加振装置の開発
◆永吉琉莞・藤井廣大・菊地優希 既存アクチュエータを利用したスプリング式共振加振装置の開発
◆佐藤遼河・寺町泰輝 3Dプリンタで製作した立体骨組試験体の構造特性に関する研究
◆寺町泰輝・佐藤遼河 3Dプリンタで製作した立体骨組試験体の構造特性に関する研究
◆立石千遥・谷内颯真・松本日菜子 塔状比2の滑り基礎構造建物の2方向振動台実験
◆谷内颯真・立石千遥・松本日菜子 塔状比2の滑り基礎構造建物の2方向振動台実験
◆松本日菜子・立石千遥・谷内颯真 塔状比2の滑り基礎構造建物の2方向振動台実験
◆塚田馨 連続梁モデルによる間柱型ダンパーの降伏時層間変形角の算定方法に関する研究
◆吉井遥菜・西海翔太 中鋼管降伏タイプの折返しプレースの構造特性に関する研究
◆西海翔太・吉井遥菜 中鋼管降伏タイプの折返しプレースの構造特性に関する研究
◆松川桃佳・吉原崇 木造多層建物への次世代制震構造システムの有効性に関する研究
◆美馬梨花 物流倉庫に組み込まれた折返しプレースの必要性能に関する研究
◆吉野峻 観測加速度記録に基づくRC造建物の応急危険度判定法の適用性に関する研究

福井研究室

修士論文

- ◆岡藤 せん断破壊を生じるRC梁の応力伝達機構に及ぼすシアスパン比とせん断補強筋比の影響
◆高木翔 PCaPC 圧着梁部材におけるPC鋼材のアンボンド領域長さの影響に関する実験的研究

卒業論文

- ◆牧良磨・阿部達・木村仁美・保坂駿 部分アンボンドPCaPC梁の地震時挙動に関する実験的研究
◆保坂駿・阿部達・木村仁美・牧良磨 部分アンボンドPCaPC梁の地震時挙動に関する実験的研究

- ◆木村仁美・阿部達・保坂駿・牧良磨 部分アンボンドPCaPC梁の地震時挙動に関する実験的研究
◆阿部達・木村仁美・保坂駿・牧良磨 部分アンボンドPCaPC梁の地震時挙動に関する実験的研究
◆尾形篤史・高塚隆平 材軸直交方向の圧縮応力を用いた応力解析
◆高塚隆平・尾形篤史 材軸直交方向の圧縮応力を用いた応力解析
◆澤田空大・加賀屋颯音・府金未紗 RC部材のせん断伝達機構に関するFEM弾塑性解析
◆加賀屋颯音・澤田空大・府金未紗 RC部材のせん断伝達機構に関するFEM弾塑性解析
◆府金未紗・澤田空大・加賀屋颯音 RC部材のせん断伝達機構に関するFEM弾塑性解析
◆野村創大 せん断破壊を起こすPC梁のコンクリート圧縮応力の分布に関する実験計画

高橋研究室

卒業論文

- ◆篠田健太・小川雄輝 建物最上階に設置される設備機器の耐震性能に関する解析的研究
◆小川雄輝・篠田健太 建物最上階に設置される設備機器の耐震性能に関する解析的研究
◆織田愛実・尾崎太亮 壁脚部のみに水平スリットを有するRC袖壁付き柱の弾塑性挙動に関する研究
◆尾崎太亮・織田愛実 壁脚部のみに水平スリットを有するRC袖壁付き柱の弾塑性挙動に関する研究
◆濱松紗希 東大寺南大門の耐震性能に関する研究
◆金由爽 CLT耐震壁付き鉄骨造建物の設計法一般化に関する研究

星上研究室

修士論文

- ◆相川広将 近年の台風の経路変化による海岸地形の変化に関する研究
◆熊田和真 海浜利用者の満足度データに基づいた海岸保全施設設計の定量的評価方法に関する研究
◆倉上桃佳 ビーチロックの剥離を考慮した海浜変形予測モデルの構築に関する研究
◆佐久間和也 海浜における多量の軽石の漂着後の動態に関する研究
◆田村真剛 干潟における細粒土砂の挙動を考慮した地形変化予測モデルの構築に関する研究
◆松尾哲平 数値計算に基づいた大規模養浜の効率的・効果的な実施方法に関する研究
◆三浦颯斗 ドローン搭載型レーザースカナーを用いた崖海岸の地層判別に関する研究

卒業論文

- ◆相原真洋 一宮海岸4号、5号ヘッドランド間におけるブローアウトの現地観測と考察
◆稲毛皓輝・尾身涼介 住宅等の津波垂直避難に関する研究
◆大矢健斗 アオコの鉛直移動を用いた増殖抑制に関する研究
◆小口恵太郎 長野県諏訪市諏訪湖の水質改善におけるヒシの最適な分布調査に関する研究
◆町込波希・河津友規 学校の津波避難計画作成手法に関する研究
◆熊木泰我 レギュレーターとエアレーションでのDO増加量の比較
◆小嶋賢太郎・須永知史 漂着物におけるマイクロプラスチックの分布
◆清水翼 波向変動場における浮消波堤の侵食対策効果としての検討
◆高島諒太 千葉県千葉市稲毛海岸におけるマイクロプラスチックの分布状況に関する研究
◆永野隼一 砂礫浜表面における反射強度と粒度組成に関する研究
◆船木陽翔 BGモデルによる砂丘の防護機能の評価の検証
◆増川元彌 海浜における漂着ゴミの効率的な回収方法に関する研究
◆米澤竜星 現地調査に基づいた海岸植生の地形への効果に関する研究
◆米元颯 七里ヶ浜海岸盛土の変遷に係る現地実測
◆齊藤真和子 アルギン酸ナトリウムを用いた波浪減衰効果についての実験

佐藤研究室

—— 口頭発表・ポスター発表 ——

- ◆ Shinji Sato and Hiroki Yamakawa: PROPOSAL FOR A MIXED-USE PLAN FOR BRIDGES: PLANNING OF ENVIRONMENT-FRIENDLY DISASTER PREVENTION BASE FACILITIES BY CONSOLIDATING FUNCTIONS. The GEOMATE International Conference2023Mie, pp.008. The GEOMATE International Conference2023 Program.
- ◆ 佐藤信治/川久保智康:レーザ測量器による丸の内通りの空間測量 その3: 街路から建築物への導入空間について、日本建築学会大会(近畿) 学術講演会梗概集 建築計画 pp.1111-1112, 2023.9.
- ◆ 川久保智康/佐藤信治:レーザ測量器による丸の内通りの空間測量 その4: 街路から建築物への導入空間について、日本建築学会大会(近畿) 学術講演会梗概集 建築計画 pp.1113-1114, 2023.9.
- ◆ 中村正基/佐藤信治:新金貨物線旅客化に伴う災害に対応した駅舎の設計—一時避難機能を有する複合型公共施設としての提案—、日本建築学会大会(近畿) 建築デザイン発表会梗概集 pp.90-9111023.9.
- ◆ 尾沢圭太/佐藤信治:常ノ伽藍 宿泊・防災機能を有した大仏殿の提案、日本建築学会大会(近畿) 建築デザイン発表会梗概集 pp.94-95, 2023.9.
- ◆ 安藤大翔/佐藤信治:災世の救艦 石油掘削リグを用いた海上都市計画、日本建築学会大会(近畿) 建築デザイン発表会梗概集 pp. 108-109, 2023.9.
- ◆ 法橋礼歩/佐藤信治:湯気たなびく街の記憶 銭湯を心臓とした循環型都市の形成/日本建築学会大会(近畿) 建築デザイン発表会梗概集 pp. 134-135, 2023.9.
- ◆ 佐藤信治、太田優人:江戸川区における防災に対応した庁舎の提案、第67回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.439-440, 2023.11.
- ◆ 佐藤信治、小林功基:水中遺跡の保存及び利活用に関する施設の提案、第67回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.441-442, 2023.11.
- ◆ 佐藤信治、開亮太:シンガポール沖合における洋上水素供給拠点の設計、第67回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.443-444, 2023.11.
- ◆ 佐藤信治、尾沢圭太:鎌倉大仏殿再建の提案—古都鎌倉における現代に調和した大仏殿の設計—、第67回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.445-446, 2023.11.
- ◆ 佐藤信治、佐村拓郎:高尾山を通る圏央道が生んだ問題の解決案、第67回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.447-448, 2023.11.
- ◆ 佐藤信治、安藤大翔:石油掘削リグを用いた海上都市計画、第67回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.449-450, 2023.11.
- ◆ 佐藤信治、荒木陽哉:放置された人工林環境の改善策について、第67回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.451-452, 2023.11.
- ◆ 佐藤信治、樋口大雅:東京湾におけるシン海上都市の提案、第67回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.473-474, 2023.11.
- ◆ 佐藤信治、奥村碩人:なにわの海の時空間のリノベーション計画、第67回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.475-476, 2023.11.
- ◆ 佐藤信治、櫻井彩音:衣服の行き先を変えていく、第67回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.477-478, 2023.11.
- ◆ 佐藤信治、柏木玲菜:旧柏そごうを音楽の聖地化への提案、第67回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.479-480, 2023.11.
- ◆ 佐藤信治、仲澤和希:海洋プラごみと荒廃林を活用した歴史と環境になじむ建築の提案、第67回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.481-482, 2023.11.
- ◆ 佐藤信治、鈴木暖:データセンターを中心とした街の提案、第67回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.483-484, 2023.11.
- ◆ 佐藤信治、山口直也:eスポーツ複合施設の提案、第67回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.485-486, 2023.11.
- ◆ 佐藤信治、鈴木雄士:都心につくオアシス施設の提案、第67回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.487-488, 2023.11.
- ◆ 佐藤信治、熊本一希:火葬場としての機能を有したダム設計、第67回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.489-490, 2023.11.
- ◆ 佐藤信治、浅井駿来:宇宙港を核とした地域活性化の提案、第67回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.491-492, 2023.11.
- ◆ 佐藤信治、富永玲央:水素製鉄による排水を用いたグリーンインフラ拠点の提案、第67回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.493-494, 2023.11.

—— 著書・執筆等 ——

- ◆ 編者:海洋建築デザイン教材研究会 著者:佐藤信治、他5名と共著、新訂増補第二版 空間デザインを学ぶ、(株)DTP出版、2023.9.14

—— 作品等 ——

- ◆ 佐藤信治、熊工房鶴田伸介、筒井紀博空間工房:横浜市山下埠頭及びN地区計画デザインアンドデベロップメント 2023

—— 所属学生の受賞等 ——

- ◆ 奥村碩人、仲澤 和希:日本建築学会主催建築設計競技、2023 テーマ「環境と建築」、タジマ奨励賞
- ◆ 安藤大翔、太田優人:日本建築学会主催建築設計競技、2023 テーマ「環境と建築」、北海道支部入選
- ◆ 荒木陽哉、山口直也:日本建築学会主催建築設計競技、2023 テーマ「環境と建築」、東北支部入選
- ◆ 若松溜牙:石井秀幸賞、建築学縁祭、主催:総合資格学院
- ◆ 姫野由依:佳作 建築新人戦 2023 実行委員会、協賛、大和ハウス、総合資格学院、A&A ほか
- ◆ 若松溜牙:建築新人戦 100 選、主催建築新人戦 2023 実行委員会、協賛、大和ハウス、総合資格学院、A&A ほか
- ◆ 姫野由依:奨励賞、VectorWorks 学生作品コンテスト 主催 A&A、2023.9.1
- ◆ 鈴木雄士、富永玲央、佐村拓郎、姫野由依、小林弘真:日本建築学会関東支部 第24回提案競技「美しくまちをつくる、むらをつくる」まちなか再生に取り組み伊勢崎市の未来を創造する—地域資源を織りなし、回遊、賑わいを創出する、佳作入選
- ◆ 富永玲央、太田優人、法橋礼歩、鈴木雄士:テーマ「誘う(いざなう)建築」第11回ヒューリック学生アイデアコンペ、2023.11.12、佳作入選(応募総数:121)
- ◆ 若松溜牙:第23回住宅課題賞入選作品展、作品展示、2023.11.16~29
- ◆ 石黒敬太:「雪を纏う価値とは。What is the value of wearing snow?」日本建築学会 支部共通事業 全国大学・高専卒業設計展示会出品
- ◆ 安藤大翔:令和5年度第67回学術講演会優秀発表賞、2024.1.23

—— 学外活動(講演・講義等) ——

- ◆ 佐藤信治:登録文化財の活用を考える、主催:秋田県登録有形文化財所有者の会、秋田県大仙市、2023.8.30.
- ◆ 佐藤信治:登録文化財と建築士会、持ち主との新しい関係を提案する、主催一般社団法人千葉県建築士会、千葉県千葉市、一般社団法人千葉県建築士会大会 議室、2023.5.19.
- ◆ 佐藤信治:千葉県における登録文化財の現状とその活用を考える、主催一般社団法人千葉県建築士会、千葉県千葉市、千葉市民ギャラリー、2023.9.9.
- ◆ 佐藤信治:秋田産業サポータークラブ講演会、地域連携観光ワーキング年次報告会、主催:秋田県、2024.1.30.
- ◆ 佐藤信治:秋田産業サポータークラブ講演会、秋田杉活用ワーキング年次報告会、主催:秋田県、2024.1.30.
- ◆ 佐藤信治:第一回千葉県内の景観を考える見学会講演会「千葉県の景観計画と原風景の関係を考える」、主催一般社団法人千葉県建築士会景観整備機構、2024.3.10

—— 学外活動(委員会活動等) ——

- ◆ (株)日本建築学会 第24期代議員
- ◆ (株)日本建築学会全国建築系大学教育連絡協議会 委員
- ◆ (株)日本建築学会 JABEE 学部課程(建築学・建築学関連分野) 認定審査委員会 審査委員
- ◆ (株)日本建築学会 JABEE 修士課程(建築学・建築学関連分野) 認定審査委員会 審査委員
- ◆ (株)東京建築士会
- ◆ 千葉県産学連携建築連絡会議運営委員会 委員
- ◆ 千葉県建築学学生賞 運営委員会 委員
- ◆ 秋田産業サポータークラブ 幹事
- ◆ 秋田産業サポータークラブ 地域連携観光ワーキング 主査

教員研究業績 研究室活動業績

- ◆秋田産業サポータークラブ 秋田杉活用ワーキング 主査
- ◆(社)海洋環境創生機構運営委員会 委員
- ◆秋田県能代市 産業振興アドバイザー

- ◆秋田県 登録文化財所有者の会 幹事
- ◆(仮称) 千葉県国登録有形文化財建造物所有者の会 相談役

山本研究室

口頭発表・ポスター発表

- ◆山本和清：漁業集落における要援護者の津波避難リスク軽減から見た高台移転に関する研究、第11回海洋建築及び沿岸域利用に関する日韓シンポジウム論文集 pp.1-27, 2023.8
- ◆長坂建志、山本和清、宮崎渉：商業捕鯨再開における捕鯨業の現状と地域活性化に関する研究、日本建築学会大会（近畿）学術講演概要集 pp.47-48, 2023.9
- ◆谷田部美依奈、山本和清：在宅障害者の水害避難計画に関する研究－水害危険地帯である江東5区を対象として－、日本福祉のまちづくり学会第26回全国大会研究発表会 Web 要旨集 一般セッション6「防災・安全1」II 1B-4, 2023.10

学外活動（委員会活動等）

- ◆東京湾の環境をよくするために行動する会 監事
- ◆(一社) 日本建築学会・海洋建築委員会 津波避難シェルター小委員会 委員
- ◆千葉県館山市・たてやま海まちフェスタ 2023 実行委員会委員
- ◆千葉県・千葉県建設工事総合評価委員会 委員
- ◆日本大学桜門建築会・広報委員会 委員
- ◆日本大学理工学部校友会・海洋建築部会 常任幹事
- ◆日本大学理工学部校友会・財務委員会 委員
- ◆日本大学・第70回日本大学全国高等学校建築設計競技実行委員会 委員
- ◆日本大学・第70回日本大学全国高等学校建築設計競技 審査員

海洋建築・建築デザイン研究室（菅原・小林）

審査付論文

- ◆中島伸、泉山墨威、菅原遼、森本あんな、一之瀬大雅、小野寺瑞穂、飛田龍佑、原唯菜：歩車共存に向けた車道占用による空間活用実験の成果と課題 -Park(ing)Day2021 神田を事例として-、都市計画論文集 Vol.58 No.3, pp.688-695, 2023.10

口頭発表・ポスター発表

【意匠系】

- ◆佐藤大和：デジタルファブリケーションを用いた建築計画と施工計画、令和5年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 J-1, pp.423-424, 2023.11
- ◆小林真子、居駒知樹：2025年日本国際博覧会跡地計画 -観光立国における国際医療ツーリズム拠点の提案-、令和5年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 J-5, pp.431-432, 2023.11
- ◆津下純也：超高齢社会に備えた病院建築の提案 -地域や利用者との連携を誘発させる地域包摂型病棟の提案-、令和5年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 J-6, pp.433-434, 2023.11
- ◆伊東龍哉、小林直明：日本の林業の再生に資する複合型建築の提案、令和5年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 J-17, pp.455-456, 2023.11
- ◆齋藤瞬汰、小林直明：千住郵便局電話事務室の改修 -近代産業遺産の保存と活用-、令和5年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 J-16, pp.453-454, 2023.11
- ◆長谷部悠、小林直明：海上イノベーションセンターの設計 -海洋基本計画に伴うCCUSの実証実験拠点の提案-、令和5年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 J-18, pp.457-458, 2023.11
- ◆渡邊愛、居駒知樹：福島県富岡町における教育施設の建築計画、日本大学工学部第66回学術研究報告会 建-2.13, 2023.12

【計画系】

- ◆小嶋英志朗、畔柳昭雄、菅原遼：東京都23区に立地する文化施設の空間構成からみた浸水リスクに関する研究、2023年度日本沿岸域学会研究討論会、講演番号 6-1, 2023.7
- ◆上山肇、菅原遼：SDGsにおける「親水」の役割、2023年度日本建築学会大会（近畿）建築 SDGs 宣言推進特別調査委員会総合研究協議会資料「持続可能な建築-まちづくりのための建築学会 SDGs アクション」、pp.50-51, 2023.9
- ◆菅原遼：河川沿いの遊歩道を活用した「隅田川マルシェ」の取り組み経緯と仕組み、日本建築学会大会（近畿）学術講演会 都市計画、pp.477-478, 2023.9
- ◆吉田郁夫、菅原遼、増田光弘：日本国内におけるフローティング建築の建設動向と関連法制度の系譜、日本建築学会大会（近畿）学術講演会 海洋建築、pp.43-44, 2023.9
- ◆鈴木貴之、畔柳昭雄、菅原遼：全国の港湾都市における歴史的建築物の立地分布に関する研究、日本建築学会大会（近畿）学術講演会 海洋建築、pp.45-46, 2023.9
- ◆鈴木空、畔柳昭雄、菅原遼：東京都臨海部の超高層マンション開発に見る水辺の

オープンスペースの整備実態に関する研究、日本建築学会大会（近畿）学術講演会 海洋建築、pp.53-54, 2023.9

- ◆高橋佑侍、畔柳昭雄、菅原遼：設計意図からみた美術館と水の関係性に関する研究、日本建築学会大会（近畿）学術講演会 海洋建築、pp.55-56, 2023.9
- ◆岡田祐成、菅原遼：本土近接型離島における離島観光施策に関する現状と課題、令和5年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 J-8, pp.437-438, 2023.11
- ◆川名神威、菅原遼：河川空間のオープン化の実施動向と事業傾向に関する研究、令和5年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 J-37, pp.495-496, 2023.11
- ◆川上真平、菅原遼：東京都における船着場の利用状況と背後地との関係に関する研究 -東京都公園協会管理の船着場に注目して-、令和5年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 J-38, pp.497-498, 2023.11
- ◆石原莉莉、菅原遼：全国の沿岸部に立地する神社の立地特性と海との関わり、令和5年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 J-39, pp.499-500, 2023.11
- ◆高柳祐里、菅原遼：全国の競艇場の建設経緯及び水面の選定理由に関する研究、令和5年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 J-40, pp.501-502, 2023.11
- ◆岩田実優、菅原遼：東京都23区における水面利用ルールの現状把握、令和5年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 J-41, pp.503-504, 2023.11
- ◆今市尚大、菅原遼：東京都臨海部における水辺の遊歩道と背後地の一体的整備に向けた方策検討、2023年度環境情報科学ポスターセッション、No.33, 2023.12

著書・執筆等

- ◆日本建築学会編：水辺の公私計画論 -地域の生活を彩る公と私の場づくり-、技報堂出版、2023.5

作品等

- ◆菅原遼：mizube bar、隅田川マルシェ@石川島公園、2023.3
- ◆菅原遼：mizube bar、隅田川マルシェ@越中島公園、2023.5
- ◆菅原遼：mizube bar、隅田川マルシェ@清洲橋、2023.8
- ◆菅原遼：mizube bar、月と緑と水のマルシェ@ WATERS 竹芝、2023.9-10
- ◆菅原遼：mizube bar、すみだがわオープンテラス 2023、2023.9-10
- ◆菅原遼：mizube bar、TENNOZ PLACE 2023、2023.11
- ◆菅原遼：mizube bar、COFFEE COFFEE FES 2024、2024.3
- ◆菅原遼：mizube bar、隅田川マルシェ@石川島公園、2024.3

受賞等

- ◆相田康洋・居駒知樹・恵藤浩朗・畔柳昭雄・小林昭男・菅原遼・増田光一：海洋建築序説、2023年度住田海自技術奨励賞、2023.11

教員研究業績 研究室活動業績

所属学生の受賞等

【意匠系】

- ◆菊池康太：第3回建築学祭 2023「誠實建設賞」、重層的共生・レイヤ化された絵画的水族館の提案、2023.9
 - ◆八阪柊吾：木の家設計グランプリ 2023「銀賞」、命を受け渡すところ、2023.9
 - ◆仲澤和希、佐藤航太、奥村碩人、玉木芹奈：2023年度支部共通事業 日本建築学会設計競技「タジマ奨励賞」、海洋ごみをリサイクル、そして建築へ、2023.9
- #### 【計画系】
- ◆竹内俊介：一般社団法人日本建築学会「2023年（第34回）日本建築学会 優秀卒業論文賞」、東京湾・伊勢湾・大阪湾臨海部の堤外地にみる土地利用の実態に関する研究、2023.9
 - ◆小嶋英志朗：日本沿岸域学会研究討論会 2023「優秀講演賞」、東京都23区に立地する文化施設の空間構成からみた浸水リスクに関する研究、2022.11
 - ◆鈴木空：2023年度日本建築学会大会〔近畿〕海洋建築「2023年度若手優秀発表賞」、東京都臨海部の超高層マンション開発に見る水辺のオープンスペースの整備実態に関する研究、2023.12
 - ◆川名神威：令和5年度第67回日本大学理工学部学術講演会「優秀発表賞」、河川空間のオープン化の実施動向と事業傾向に関する研究、2024.1

学外活動（講演・講義等）

- ◆菅原遼：農村・漁村地域における木造船の建築活用から見た舟板建築文化圏の解明、窓研究所研究報告会 2023、2023.4（講演）
- ◆菅原遼：水辺の民間開放論 - 水辺の賑わいを支える公私計画 -、法政大学大学院「都市空間論」、2023.5（講演）
- ◆菅原遼：親水公園や葛西臨海公園の自然環境に関する紹介、江戸川区環境フェア 2023、2023.6（展示）
- ◆菅原遼：KOTO MIZUBE-BA PLAN と国内における水辺空間活用事例について、江東区 水運を活かした観光施策勉強会、2023.6（講演）
- ◆菅原遼：民間開放論 - 都市の水辺の民間開放による地域の水辺の価値向上 -、第47回水環境シンポジウム、2023.7（講演）
- ◆菅原遼：東京都臨海部（港区・品川区）フィールドワーク、法政大学大学院「まちづくり事例研究」、2023.7（講義）
- ◆菅原遼：土地という隣人（編集担当）、建築雑誌 2023年7月号、2023.7（雑誌掲載）
- ◆菅原遼：沿岸地域の再編に向けた全国の造船所の立地特性と跡地活用の方策検討、第11回海洋建築及び沿岸利用に関する日韓シンポジウム、2023.8（講演）
- ◆菅原遼：日韓中デザインワークショップ 2018 開催報告、第11回海洋建築及び沿岸利用に関する日韓シンポジウム、2023.8（講演）
- ◆菅原遼：設計演習（総合演習・計画デザイン演習）を通じた学生による荒川ロッケットエリアの空間整備の提案、第1回荒川ロッケット・ヒル勉強会、2023.8（講演）

- ◆菅原遼：Recent Trends in Ocean Space Utilization and Oceanic Architectures Considering Future Climate Change. JOINT SEMINAR CIT-U NU, 2023.8（講演）
- ◆菅原遼：第35回研究討論会報告、沿岸域学会誌 第36巻 第2号、pp.44-46、2023.9（雑誌掲載）
- ◆菅原遼：World Conference on Floating Solutions WCFs2023 Japan、新建築 第92巻 13号、p.17、2023.10（雑誌掲載）
- ◆菅原遼：港の資源を活かした漸進的な地域再生と市民の「居場所」と「交流」の場としての水辺づくり、第46回全国町並みゼミ小樽大会 第3分科会 基調講演、2023.10（講演）
- ◆菅原遼：市民憩う魅力ある運河に 小学生や専門家らがアイデア続々 小樽で町並みゼミ 2日目、北海道新聞、2023.10（新聞掲載）
- ◆菅原遼：気候変動対応としてのフローティングアーキテクチャー（浮体式建築物）の可能性、第11回サイエンスカフェ、2023.11（講演）
- ◆菅原遼：気候変動時代における海拔ゼロメートル地域の水害リスクとフローティングアーキテクチャーの可能性、東京都立深川高等学校 出張講義、2023.12（講義）
- ◆菅原遼：変わる住まい、日本の住宅は工夫の歴史、日経 MJ、2024.1.3（新聞掲載）
- ◆菅原遼：河川空間が包容する「居場所」と「賑わい」の両義性、土木学会誌 Vol.109 No.1、pp.28-29、2024.1（雑誌掲載）
- ◆菅原遼：気候変動時代における水害リスクと海洋建築（フローティングアーキテクチャー）の可能性、土浦日本大学高等学校 出張講義、2024.3（講義）
- ◆菅原遼：水辺開放に向けた地域・建築デザイン、外濠市民塾セミナー、2024.3（講演）
- ◆小林直明：実施設計施工PJコンストラクションマネジメント 2022.1～2024.3

学外活動（委員会活動等）

- ◆菅原遼：日本建築学会・親水とSDGs小委員会 幹事
- ◆菅原遼：日本建築学会・フローティング建築小委員会 幹事
- ◆菅原遼：日本建築学会・水環境運営委員会 委員
- ◆菅原遼：日本建築学会・海洋建築本委員会 委員
- ◆菅原遼：日本建築学会・建築雑誌編集委員会 委員
- ◆菅原遼：日本沿岸域学会・企画運営委員会 委員
- ◆小林直明：太陽エネルギーデザイン（SDC）研究会 幹事

研究助成・受託研究

- ◆菅原遼：受託研究、横須賀市・浦賀ドック周辺の歴史的価値に関する調査研究、株式会社社長大
- ◆菅原遼：受託研究、港湾地域等の低未利用地の活用に向けた要件整理に関する研究、株式会社社長大
- ◆菅原遼：受託研究、ウォーターズ竹芝の水辺空間の賑わい創出に関する実証的研究、一般社団法人竹芝タウンデザイン

ウォーターフロント都市工学研究室（寺口・桜井）

口頭発表・ポスター発表

- ◆五江洸佑真・寺口敬秀・桜井慎一：災害救援拠点としての「海の駅」の利活用に関する研究 - 全国の海の駅を対象としたアンケート調査 -、日本沿岸域学会研究討論会 2023 講演概要集 No.35、講演番号 2-4、2023.5
- ◆小出将貴・寺口敬秀・桜井慎一：港湾施設を活用した海釣り施設の整備に関する研究、日本沿岸域学会研究討論会 2023 講演概要集 No.35、講演番号 8-3、2023.5
- ◆山田匠人・寺口敬秀・桜井慎一：ウォーターフロントの特性を活かしたサイクリング空間整備に関する研究、日本沿岸域学会研究討論会 2023 講演概要集 No.35、講演番号 9-5、2023.5
- ◆佐藤友香・寺口敬秀・桜井慎一：漁港空間の多目的利用に関する研究 - 岩手県と宮城県、漁港を対象とした調査 -、日本沿岸域学会研究討論会 2023 講演概要集 No.35、講演番号 15-2、2023.5
- ◆寺口敬秀：わが国におけるクルーズ船の寄港に適する港の選定と誘致方策の検討、第11回海洋建築及び沿岸域利用に関する日韓シンポジウム論文集、pp.41-53、2023.8
- ◆桜井慎一、寺口敬秀、佐藤友香：親水テラスのデザインの分節化と統一化に関する研究 - 隅田川両岸を対象とした調査 -、日本建築学会大会（近畿）学術講演梗概集 2023（海洋建築）、pp.49-50、2023.8

- ◆鈴木陽斗、寺口敬秀、桜井慎一、阿部拓真：照明を活用したウォーターフロントの夜間景観に関する研究、日本建築学会大会（近畿）学術講演梗概集 2023（海洋建築）、pp.51-52、2023.8
- ◆河合泰誠、寺口敬秀、桜井慎一、阿部拓真：洋上風力発電施設の建設に対する漁業者の評価に関する研究 - 漁業協同組合に対するアンケート調査結果 -、日本建築学会大会（近畿）学術講演梗概集 2023（海洋建築）、pp.61-62、2023.8
- ◆田中陽介、寺口敬秀、桜井慎一、佐藤友香：海水浴場における情報機器の利活用に関する研究 - 茨城県、千葉県、神奈川県を対象とした調査 -、日本建築学会大会（近畿）学術講演梗概集 2023（海洋建築）、pp.69-70、2023.8
- ◆阿部拓真、寺口敬秀、桜井慎一：都市の水災害対策を誘導する容積率緩和制度の運用状況に関する研究 - 全国の大都市を対象としたアンケート調査結果 -、日本建築学会大会（近畿）学術講演梗概集 2023（海洋建築）、pp.71-72、2023.8
- ◆佐瀬智之、寺口敬秀、桜井慎一、五江洸佑真：防災船着場の認知とアクセス向上に関する研究 - 都内4区を対象とした調査 -、日本建築学会大会（近畿）学術講演梗概集 2023（海洋建築）、pp.73-74、2023.8
- ◆佐藤友香、寺口敬秀、桜井慎一：水災害時における道路高架区間等の緊急避難場所としての整備・活用に関する研究、日本建築学会大会（近畿）学術講演梗概集 2023（海洋建築）、pp.75-76、2023.8

教員研究業績 研究室活動業績

- ◆寺口敬秀、桜井慎一、山田匠人：津波・高潮浸水想定区域に立地する避難所の安全対策に関する研究－東京湾沿岸10市区を対象とした調査－、日本建築学会大会（近畿）学術講演梗概集2023（海洋建築）、pp.77-78、2023.8
- ◆小松直純、寺口敬秀、桜井慎一、阿部拓真：津波避難シェルターの普及促進に関する研究－静岡県社会福祉施設等を対象として－、日本建築学会大会（近畿）学術講演梗概集2023（海洋建築）、pp.79-80、2023.8
- ◆齋藤友祐、寺口敬秀、桜井慎一、五江洲佑真：津波災害時における水族館の避難計画に関する研究－沿岸域に立地する水族館を対象とした調査－、日本建築学会大会（近畿）学術講演梗概集2023（海洋建築）、pp.81-82、2023.8
- ◆五江洲佑真、寺口敬秀、桜井慎一：ライフジャケット着用の普及促進に関する研究、日本建築学会大会（近畿）学術講演梗概集2023（海洋建築）、pp.83-84、2023.8
- ◆石田大誠、寺口敬秀、桜井慎一、五江洲佑真：海辺に立地するグランピング施設に関する研究－関東を対象としたアンケート調査－、日本建築学会大会（近畿）学術講演梗概集2023（海洋建築）、pp.85-86、2023.8
- ◆杉田祐将、寺口敬秀、桜井慎一、佐藤友香：年間を通じて多目的に利用できる海岸整備に関する研究－千葉県、神奈川県を対象とした調査－、日本建築学会大会（近畿）学術講演梗概集2023（海洋建築）、pp.87-88、2023.8
- ◆砂原光晴、寺口敬秀、桜井慎一、佐藤友香：電動キックボードのウォーターフロント空間における利用に関する研究－実証実験が行われた事例を対象として－、日本建築学会大会（近畿）学術講演梗概集2023（海洋建築）、pp.93-94、2023.8
- ◆五江洲佑真、寺口敬秀、桜井慎一：小型船舶を活用した災害支援に関する研究－（その2）全国の沿岸部の孤立危険地域の抽出－、令和5年度日本大学理工学部学術講演会予稿集、pp.459-460、2023.11
- ◆佐瀬智之、寺口敬秀、桜井慎一、阿部拓真：防災船着場の認知とアクセス向上に関する研究－都内15区の防災船着場を対象として－、令和5年度日本大学理工学部学術講演会予稿集、pp.461-462、2023.11
- ◆砂原光晴、寺口敬秀、桜井慎一、阿部拓真：防潮堤ウォールアートの効果と課題に関する研究、令和5年度日本大学理工学部学術講演会予稿集、pp.463-464、2023.11
- ◆石田大誠、寺口敬秀、桜井慎一、五江洲佑真：海辺に立地するグランピング施設に関する研究－西日本を対象とした地図分析－、令和5年度日本大学理工学部学術講演会予稿集、pp.465-466、2023.11
- ◆鈴木陽斗、寺口敬秀、桜井慎一、阿部拓真：クルーズターミナルにおける多目的空間利用に関する研究、令和5年度日本大学理工学部学術講演会予稿集、pp.467-468、2023.11
- ◆寺口敬秀：三陸沿岸の漁港ストックと水上飛行機を活用した「水産観光」の整備に関する研究、一般財団法人漁港漁場漁村総合研究所 調査研究論文集No.33、pp.77-80、2023.12

著書・執筆等

- ◆寺口敬秀：2023年度日本建築学会（近畿）概要報告 海洋建築部門研究協議会 関東地震津波の隠された教訓、建築雑誌、Vol.139、日本建築学会、2024.2
- ◆桜井慎一：安全性に配慮し美しく快適で賑わいのあるビーチ整備に期待したいこと、マリナー&ビーチ、2023夏号、Vol.137、（一社）日本マリナー・ビーチ協会、pp.6～7、2023.6

- ◆桜井慎一：海洋建築委員会活動報告、2022年度からの新たな体制、建築雑誌、Vol.138、No.1779、p.59、日本建築学会、2023.9

所属学生を受賞等

- ◆河合泰誠：2023年度日本建築学会（近畿）学術講演会若手優秀発表賞、洋上風力発電施設の建設に対する漁業者の評価に関する研究－漁業協同組合に対するアンケート調査結果－、日本建築学会、2023.11
- ◆齋藤友祐：2023年度日本建築学会（近畿）学術講演会若手優秀発表賞、津波災害時における水族館の避難計画に関する研究－沿岸域に立地する水族館を対象とした調査－、日本建築学会、2023.11

学外活動（講演・講義等）

- ◆寺口敬秀：関東地震津波の隠された教訓、記録、2023年度日本建築学会大会（海洋建築部門）研究協議会、2023.9
- ◆桜井慎一：関東地震津波の隠された教訓、主旨説明、2023年度日本建築学会大会（海洋建築部門）研究協議会、2023.9
- ◆桜井慎一：これからのビーチ整備に期待すること、第2回マリナー&ビーチの未来を語る夕べ、（一社）日本マリナー・ビーチ協会、2024.3

学外活動（委員会活動等）

- ◆寺口敬秀：日本建築学会・卒業論文等顕彰事業委員会 委員
- ◆寺口敬秀：日本建築学会・海洋建築本委員会 委員
- ◆寺口敬秀：日本建築学会・海洋建築本委員会・海洋エネルギー支援施設小委員会 幹事
- ◆寺口敬秀：日本建築学会・海洋建築本委員会・津波に対する沿岸まちづくり検討ワーキンググループ 委員
- ◆寺口敬秀：日本建築学会・海洋建築本委員会・津波避難シェルター小委員会 委員
- ◆寺口敬秀：WCFS2023JAPAN 実行委員会 委員
- ◆桜井慎一：船橋市開発審査会 会長
- ◆桜井慎一：船橋市まち・ひと・しごと創生懇話会 委員
- ◆桜井慎一：館山市建設工事総合評価委員
- ◆桜井慎一：日本マリナー・ビーチ協会 理事
- ◆桜井慎一：国土交通省関東運輸局・海の駅防災事業ワーキンググループ 委員
- ◆桜井慎一：日本建築学会・海洋建築本委員会 委員長
- ◆桜井慎一：日本建築学会・学術推進委員会 委員
- ◆桜井慎一：日本建築学会・海洋建築委員会・津波避難シェルター小委員会 委員
- ◆桜井慎一：日本建築学会・海洋建築委員会・津波に対する沿岸まちづくり検討ワーキンググループ 委員

研究助成・受託研究

- ◆寺口敬秀：研究奨励寄付金、日本沿岸域学会、北海道における津波避難円滑化に向けた鉄道線路の適切な横断施設設置方策の検討
- ◆桜井慎一：科学研究費・基盤研究（C）、東日本におけるクルーズ観光活性化のための新たな寄港地選定と誘致方策の検討

居駒研究室

審査付論文

- ◆鈴木雅洋、居駒知樹、相田康洋、林昌奎：流れ中における回転円柱周りの流れ場の性状に関する基礎的研究、日本船舶海洋工学学会論文集、第38号、pp.109-116、2023.12.
- ◆Tomoki Ikoma, Lei Tan, Yasuhiro Aida, Hiroaki Eto, Naoki Sekiya, Kenichi Takahashi and Kazuhisa Naoi, "Design and fundamental study of floating three-blade vertical-axis-wind turbines supported by a barge platform with multi moonpools," 日本大学理工学部理工学研究ジャーナル、総合論文、2024.3.（掲載予定）
- ◆Tomoki Ikoma, Airi Kuwata, Yasuhiro Aida and Koichi Masuda, "A Basic Investigation of Resonance Characteristics of Water Regions of PW-OWC WECs," Proceedings of the ASME 2023 42nd International

Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering (OMAE2023), ASME, OMAE2023-104669, 2023. 6.

- ◆Mebae Takekawa, Yasuhiro Aida, Hibiki Nakazawa, Ami Sasaki, Tomoki Ikoma and Koichi Masuda, "Numerical Study on the Deceleration Effect of Impact Velocity of Tsunami Drifting Objects in Front of Structures," Proceedings of the ASME 2023 42nd International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering (OMAE2023), ASME, OMAE2023-104612, 2023. 6.
- ◆Lei Tan, Changhong Hu and Yingyi Liu, "Numerical simulations of towing a jacket foundation with triple buckets," IOP Conference Series: Materials Science and Engineering, 1288 012033, pp.1-12, 2023.8.

- ◆ Lei Tan, Yingyi Liu and Changhong Hu, "A Numerical Analysis Tool for the Design of a TLP-Based Met Mast," The 33rd International Ocean and Polar Engineering Conference, Ottawa, Canada, ISOPE-I-23-136, 2023.6.
- ◆ Tomoki Ikoma, Airi Kuwata, Ryuki Miyatake, Yasuhiro Aida and Koichi Masuda, "A Basic Investigation of Resonance Characteristics of PW-OWC Type WECs," Proceedings of 3rd World Conference on Floating Solutions 2023, SFSS & WCFS 2023 Japan, pp.625-643, 2023.8.
- ◆ Kanato Terasaki, Tomoki Ikoma, Koichi Masuda and Yasuhiro Aida, "A Study on Wave Free Configurations and Motion Responses for Advanced-SPAR Type FOWTs," Proceedings of 3rd World Conference on Floating Solutions 2023, SFSS & WCFS 2023 Japan, pp.716-728, 2023.8.
- ◆ Kazuki Murata, Shinji Sassa, Yasuhiro Aida and Tomoki Ikoma, "Study on Applicability of the MPS Two-phase Flow Model to Submarine Landslide Problem and the Basic Characteristics of Impact Pressure on Mooring Anchors of Offshore Wind Turbine," Proceedings of 3rd World Conference on Floating Solutions 2023, SFSS & WCFS 2023 Japan, pp.792-803, 2023.8.
- ◆ Koichi Masuda, Tomoki Ikoma and Yasuhiro Aida, "Fundamental research on tsunami-resistant design for coastal architectures considering hazard chains," Proceedings of 3rd World Conference on Floating Solutions 2023, SFSS & WCFS 2023 Japan, pp.804-812, 2023.8.
- ◆ Yasuhiro Aida, Hibiki Nakazawa, Tomoki Ikoma and Koichi Masuda, "Numerical study of the variation of the velocity of a tsunami-drifting object in front of a building just before impact at different angles of tsunami incidence," Proceedings of 3rd World Conference on Floating Solutions 2023, SFSS & WCFS 2023 Japan, pp.814-830, 2023.8.
- ◆ Tomoki Ikoma, Kento Suzuki, Yasuhiro Aida and Koichi Masuda, "Effects of a Moonpool on Steady Wave Drifting Forces on a Floating Pontoon," Proceedings of 3rd World Conference on Floating Solutions 2023, SFSS & WCFS 2023 Japan, pp.393-407, 2023.8.
- ◆ Yusuke Shibuya, Yasuhiro Aida and Tomoki Ikoma, "Study on the Increase in Annual Maximum Significant Wave Height due to the Intensification of Typhoons using NOWPHAS Wave Observation Data," Proceedings of 3rd World Conference on Floating Solutions 2023, SFSS & WCFS 2023 Japan, pp.528-540, 2023.8.

————— 口頭発表・ポスター発表 —————

- ◆ 相田康洋、居駒知樹、増田光一、福永勇太：MPS法による津波漂流物の衝突力推定に関する一連の研究、日本船舶海洋工学学会講演会論文集、第36号、2023S-OS4-7, 2023.5.
- ◆ 鈴木雅洋、居駒知樹、相田康洋、林昌奎：流れ中における円柱の回転が流速分布に与える影響に関する実験的研究、日本船舶海洋工学学会講演会論文集、第36号、2023S-GS10-6, 2023.5.
- ◆ 鈴木雅洋、居駒知樹、林昌奎：流れ中における円柱の回転による運動量伝播特性について、日本船舶海洋工学学会講演会論文集、第37号、2023A-OS3-7, 2023.11.
- ◆ 福永勇太、居駒知樹、譚雷、相田康洋：可変ピッチ垂直軸型風車を搭載した浮体の風単独作用時の振り回り運動シミュレーションに関する基礎的研究、日本船舶海洋工学学会講演会論文集、第37号、2023A-GS5-2, 2023.11.
- ◆ Lei Tan, Yingyi Liu and Tomoki Ikoma, "Effect of Second-order Wave Drift Loads on a Barge-type Floating Wind Turbine Platform with Multiple Moonpools," 日本船舶海洋工学学会講演会論文集、第37号、2023A-GS5-3, 2023.11.
- ◆ 中澤響生、相田康洋、居駒知樹：構造物前面における津波漂流物の衝突速度に関する基礎的研究、第30回海洋工学シンポジウム、oes30-A0035, 2023.9.
- ◆ 寺崎哉人、居駒知樹、譚雷、増田光一：波なし形状を利用したスパー型洋上風力発電浮体の運動応答の検討、第30回海洋工学シンポジウム、oes30-A0053, 2023.9.
- ◆ 桑田愛理、居駒知樹、譚雷、増田光一：PW-OWC型波力発電装置における共

- 振特性に関する基礎的研究、第30回海洋工学シンポジウム、oes30-A0031, 2023.9.
- ◆ 堤龍也、居駒知樹、相田康洋、譚雷：PW-OWCの水面挙動特性に関する数値シミュレーション、第30回海洋工学シンポジウム、oes30-A0032, 2023.9.
- ◆ 鈴木雅洋、居駒知樹、林昌奎：流れ中における円柱の回転による運動量伝播特性に関する実験的研究、第30回海洋工学シンポジウム、oes30-A0017, 2023.9.
- ◆ 福永佳晏、鈴木雅洋、居駒知樹、譚雷、林昌奎：一樣流中の回転円柱に作用する流体力に流速分布が与える影響に関する実験的研究、第30回海洋工学シンポジウム、oes30-A0052, 2023.9.
- ◆ 宮武竜希、居駒知樹、増田光一、譚雷：動吸振器モデルを用いたPW-OWC型波力発電装置の一次変換係数に関する研究、第30回海洋工学シンポジウム、oes30-A0034, 2023.9.
- ◆ 福永勇太、居駒知樹、譚雷：可変ピッチ垂直軸型洋上風車のスラスト制御と浮体の移動に関する検討、第30回海洋工学シンポジウム、oes30-A0036, 2023.9.
- ◆ 鈴木健斗、居駒知樹、譚雷：ムーンプールが波漂流力および波漂流力を構成する項に与える影響に関する基礎的研究、第30回海洋工学シンポジウム、oes30-A0040, 2023.9.
- ◆ 福永佳晏、鈴木雅洋、居駒知樹、相田康洋、林昌奎：回転円柱に作用する流体力に与える流速分布の影響に関する実験的研究、日本沿岸域学会研究討論会、2023年度講演概要集、No.35, file 7-2, 2023.7.
- ◆ 鈴木健斗、居駒知樹、譚雷：ムーンプール付きボンツーン型浮体の定常波漂流力を構成する要素について、日本沿岸域学会研究討論会、2023年度講演概要集、No.35, file 7-4, 2023.7.
- ◆ 桑田愛理、居駒知樹、相田康洋、増田光一：PW-OWC型波力発電装置における底板の厚みが一次変換特性の変化に関する研究、日本建築学会大会（近畿）学術講演会梗概集、10007, 2023.9.
- ◆ 宮武竜希、居駒知樹、相田康洋、増田光一：動吸振器モデルを用いたPW-OWC型波力発電装置の一次変換特性に関する研究、日本建築学会大会（近畿）学術講演会梗概集、10008, 2023.9.
- ◆ 福永勇太、居駒知樹、相田康洋、増田光一：垂直軸型可変ピッチ風車に作用するスラスト荷重の推定および浮体の風追従運動の実現性に関する検討、日本建築学会大会（近畿）学術講演会梗概集、10009, 2023.9.
- ◆ 堤龍也、居駒知樹、相田康洋：CFDを用いたPW-OWCの水面の共振現象に関する基礎的研究、日本建築学会大会（近畿）学術講演会梗概集、10018, 2023.9.
- ◆ 寺崎哉人、居駒知樹、増田光一、相田康洋：2点波無し浮体の長周期変動波漂流力特性について、日本建築学会大会（近畿）学術講演会梗概集、10019, 2023.9.
- ◆ 鈴木雅洋、居駒知樹、相田康洋、林昌奎：流れ中における回転円柱周りの流速分布とレイノルズ応力に関する実験的研究、日本建築学会大会（近畿）学術講演会梗概集、10020, 2023.9.
- ◆ 中澤響生、居駒知樹、相田康洋、増田光一：遡上津波中の建築物周りの流れ場を与える津波入射角の影響に関する基礎的研究、日本建築学会大会（近畿）学術講演会梗概集、10021, 2023.9.

————— 著書・執筆等 —————

- ◆ 居駒知樹：巻頭言、日本沿岸域学会誌、Vol. 36, No.3, 2023.12

————— 受賞等 —————

- ◆ 譚雷（第6位）：科学技術進歩賞二等賞、港湾工学に関する研究、中国航海学会、2023.12.

————— 所属学生の受賞等 —————

- ◆ 福永佳晏：研究討論会2023 優秀講演賞、回転円柱に作用する流体力に与える流速分布の影響に関する実験的研究、日本沿岸域学会、2023.1.12.
- ◆ 福永勇太：理工学部学術講演会 優秀発表賞、日本大学理工学部、2023.1.

————— 学外活動（講演・講義等） —————

- ◆ 居駒知樹：「海洋開発と構造物」、2023 MIKASA シンポジウム、福島RDMセンター GRAND Opening 2023「結」、2023年6月30日
- ◆ 居駒知樹：洋上風力開発トークセッション・パネリスト、2023 MIKASA シンポジウム、福島RDMセンター GRAND Opening 2023「結」、2023年6月30日

教員研究業績 研究室活動業績

- ◆居駒知樹：「海洋空間計画」、大阪大学洋上風力発電寄附講座公式勉強会、オンライン、2023年12月13日
- ◆Tomoki Ikoma, "Hydrodynamic Analysis of Floating Systems in Ocean Waves with Nonlinear Effects," Keynote Presentation, Ocean Engineering Symposium to Celebrate the 70th Birthday and Career of Prof. Atilla Incecik, at University of Strathclyde, Glasgow, 2023.12.8.
- ◆Tomoki Ikoma, "Development and Estimation of a Novel OWC Type Wave Energy Converter," Keynote Presentation, The 7th Symposium on Computational Marine Hydrodynamics (CMHL), Shanghai Jiao Tong University, China, Online, 2024.1.27.

—— 学外活動（委員会活動等） ——

- ◆居駒知樹：東京大学生産技術研究所 リサーチフェロー
- ◆居駒知樹：日本沿岸域学会 副会長、理事
- ◆居駒知樹：一般社団法人海洋エネルギー資源利用推進機構(OEAJ) 理事(学術担当)
- ◆居駒知樹：日本海洋工学会 理事、運営委員（日本沿岸域学会担当）
- ◆居駒知樹：日本建築学会・海洋建築委員会 本委員会委員
- ◆居駒知樹：日本建築学会・海洋建築委員会・海洋エネルギー支援建築小委員会 委員
- ◆居駒知樹：日本建築学会・海洋建築委員会・フローティング建築小委員会 委員
- ◆居駒知樹：日本船舶海洋工学会・海洋工学・海洋環境研究企画部会 部会委員
- ◆居駒知樹：日本船舶海洋工学会・海洋工学研究会 幹事
- ◆居駒知樹：日本船舶海洋工学会・海洋環境研究会 委員
- ◆居駒知樹：日本船舶海洋工学会・海洋教育推進委員会 運営委員
- ◆居駒知樹：テクノ・オーシャン・ネットワーク (TON) 理事
- ◆居駒知樹：PACON International, Board member (理事)
- ◆居駒知樹：OMAE 2023 & OMAE 2024 Symposium Coordinator of Ocean Space Utilization
- ◆居駒知樹：ASME, Extended Executive Committee Member of Ocean, Offshore and Arctic Engineering (OOAE)
- ◆居駒知樹：WCFS 2023 Organized Committee member、実行委員会委員長

- ◆居駒知樹：Techno-Ocean 2023 実行委員会副委員長、Techno-Ocean 2023 Technical Program Committee 委員、Panel Session 4 (洋上風力発電開発) コーディネーター
- ◆居駒知樹：Renewable Energy 2022 分科会8 (海洋エネルギー) Co-Readers
- ◆居駒知樹：IEC TC114 国内委員
- ◆居駒知樹：IEC TC114 MT 62600-103 - Guidelines for WEC testing 国際委員
- ◆居駒知樹：NEDO、特殊な設置形態の太陽光発電設備に関する安全性確保のためのガイドライン策定委員会 委員
- ◆居駒知樹：日本ERI株式会社、建築基準法に基づく建築物構造性能評価委員会 委員
- ◆居駒知樹：一般社団法人 みなど総合研究財団 審査委員会 委員
- ◆居駒知樹：OMAE2026 東京誘致委員会 副委員長
- ◆居駒知樹：OMAE2026 東京開催実行委員会 副委員長
- ◆居駒知樹：土木学会 会員
- ◆居駒知樹：ASME member
- ◆居駒知樹：海洋技術フォーラム 幹事
- ◆居駒知樹：海洋工学懇談会 幹事
- ◆居駒知樹：博士論文審査委員(学外):NITK(国立カルナタカ工科大学、インド)(1件)
- ◆譚雷：学術雑誌 Machines (SCI-indexed, JCR-Q2, IF=2.6)・特集号 Recent Developments in Offshore Wind Turbines ゲストエディター

—— 研究助成・受託研究 ——

- ◆居駒知樹：科学研究費補助金・基盤研究 (B)、可変ピッチ機構を導入した垂直軸型風力発電浮体の姿勢制御を含めた概念実証研究
- ◆居駒知樹：受託研究、(一財) 港湾空港総合技術センター、スマートグロス港湾技術に関する基礎調査
- ◆居駒知樹：受託研究、(一社) 早崎潮流発電推進研究会、可変ピッチ垂直軸型水車の早崎瀬戸での実証事件計測及びデータ解析
- ◆居駒知樹：共同研究、パシフィックコンサルタンツ株式会社、コンクリート製浮体式風車の流体力解析

惠藤研究室

—— 審査付論文 ——

- ◆惠藤浩明、鹿島暁、菅原幹将、鈴木湧大、岡崎雄一：弾性係留システムを適用した超大型浮体式構造物の係留索諸元選定に関する基礎的研究、特集号 (海洋開発) 論文、79巻18号、23-18125、2023.06.

—— 口頭発表・ポスター発表 ——

- ◆関口峻介、小岩立汰、惠藤浩明：浮体式交差軸風車に作用する風荷重に関する基礎的研究 その1:FCAWTの概要および解析モデルの構築、日本建築学会大会(近畿) 学術講演会梗概集 pp.7-8、2023.09.
- ◆小岩立汰、関口峻介、惠藤浩明：浮体式交差軸風車に作用する風荷重に関する基礎的研究 その2:FCAWTの運用状況に応じた風荷重特性、日本建築学会大会(近畿) 学術講演会梗概集 pp.9-10、2023.09.
- ◆四宮夕芽花、関口峻介、惠藤浩明：浮体式垂直軸型風車に作用する風荷重の推定に関する基礎的研究、日本建築学会大会 (近畿) 学術講演会梗概集 pp.11-12、2023.09.
- ◆寺田拓海、木下龍太郎、惠藤浩明：浮体式構造物が設置された閉鎖水域のスロッシング解析、日本建築学会大会 (近畿) 学術講演会梗概集 pp.21-22、2023.09.
- ◆菅原幹将、鈴木湧大、鈴木渉、惠藤浩明：弾性係留システムを適用した超大型浮体式構造物の係留索諸元選定に関する基礎的研究、日本建築学会大会 (近畿) 学術講演会梗概集 pp.23-24、2023.09.
- ◆鈴木湧大、菅原幹将、鈴木渉、惠藤浩明：浮体の運動応答と弾性係留システムの復元力特性に関する基礎的研究、日本建築学会大会 (近畿) 学術講演会梗概集 pp.25-26、2023.09.
- ◆惠藤浩明、木下龍太郎：大規模災害時における避難者数の推計に関する基礎的研究 その1：避難者数算定式の提案、日本建築学会大会 (近畿) 学術講演会梗概集 pp.65-66、2023.09.
- ◆木下龍太郎、惠藤浩明：大規模災害時における避難者数の推計に関する基礎的研究 その2：東日本大震災と南海トラフ地震における避難者数の推計、日本建築

学会大会 (近畿) 学術講演会梗概集 pp.67-68、2023.09.

- ◆四宮夕芽花、関口峻介、惠藤浩明：浮体式垂直軸型風車に作用する風荷重の推定に関する基礎的研究、日本建築学会大会 (近畿) 学術講演会梗概集 pp.11-12、2023.09.
- ◆野田有里子、鈴木渉、菅原幹将、惠藤浩明：弾性体の特性変化に伴う弾性係留システムの係留設計に関する基礎的研究、第67回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、J-42、2023.11.
- ◆渡辺裕一朗、惠藤浩明：第7鉱区における石油・天然ガス開発に関する調査研究、第67回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、J-43、2023.11.
- ◆寺田拓海、紀藤菜穂、葛西拓海、木下龍太郎、惠藤浩明：閉鎖水域のスロッシングに伴う浮体式構造物の運動応答、第67回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、J-44、2023.11.
- ◆阿部文哉、船内終志、田村直輝、惠藤浩明、西田淳：粒子法によるハイブリッドケーソン前面に作用する波圧の算定、第67回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、J-45、2023.11.
- ◆四宮夕芽花、松下毅、関口峻介、惠藤浩明：静止した浮体式垂直軸型風車に作用する風荷重の特性把握、第67回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、J-46、2023.11.
- ◆佐々木暁成、西川由紀、木下龍太郎、惠藤浩明：粒子法による没水平板の海洋波集波効果に関する基礎的研究、第67回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、J-47、2023.11.
- ◆加藤靖崇、山川健介、須賀達樹、関口峻介、惠藤浩明：浮体式交差型軸風車の起動特性に関する検討、第67回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、J-48、2023.11.

—— 受賞等 ——

- ◆惠藤浩明 他：住田海事技術奨励賞、受賞図書「海洋建築シリーズ 海洋建築序説」、日本海運集会所、2023.11.

教員研究業績 研究室活動業績

学外活動（委員会活動等）

- ◆日本建築学会・海洋建築本委員会 幹事
- ◆日本建築学会・海洋建築委員会・海洋エネルギー支援建築小委員会 主査
- ◆日本建築学会・論文集委員会・部門幹事
- ◆日本建築学会・SDGs 対応推進特別調査委員会 委員
- ◆日本建築学会・卒業論文等顕彰事業委員会 委員
- ◆日本船舶海洋工学学会・海洋工学研究会・構造部会 委員
- ◆日本船舶海洋工学学会・東部支部編集委員会 委員
- ◆日本沿岸域学会・論文集編集委員会 委員

- ◆国際津波防災学会 総務担当役員
- ◆国際津波防災学会・総会/学術集会 コーディネーター
- ◆東京大学生産技術研究所 リサーチフェロー

研究助成・受託研究

- ◆惠藤浩明：研究奨励寄付金、CRESS FEED 株式会社、浮体式構造物の運動応答及び係留に関する研究
- ◆惠藤浩明：研究奨励寄付金、日本エンジニアリング株式会社、ハイブリッドケーソン式防波堤の揚圧力と抑圧力に関する研究

海洋物理計算工学研究室（相田・近藤）

審査付論文

- ◆鈴木雅洋、居駒知樹、相田康洋、林昌奎：流れ中における回転円柱周りの流れ場の性状に関する基礎的研究、日本船舶海洋工学学会論文集、第 38 号、pp.109-116, 2023.12.
- ◆Tomoki Ikoma, Lei Tan, Yasuhiro Aida, Hiroaki Eto, Naoki Sekiya, Kenichi Takahashi and Kazuhisa Naoi, "Design and fundamental study of floating three-blade vertical-axis-wind turbines supported by a barge platform with multi moonpools," 日本大学理工学部理工学研究所ジャーナル、総合論文、2024.3. (掲載予定)
- ◆Tomoki Ikoma, Airi Kuwata, Yasuhiro Aida and Koichi Masuda, "A Basic Investigation of Resonance Characteristics of Water Regions of PW-OWC WECs," Proceedings of the ASME 2023 42nd International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering (OMAE2023), ASME, OMAE2023-104669, 2023. 6.
- ◆Mebae Takekawa, Yasuhiro Aida, Hibiki Nakazawa, Ami Sasaki, Tomoki Ikoma and Koichi Masuda, "Numerical Study on the Deceleration Effect of Impact Velocity of Tsunami Drifting Objects in Front of Structures," Proceedings of the ASME 2023 42nd International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering (OMAE2023), ASME, OMAE2023-104612, 2023. 6.
- ◆Tomoki Ikoma, Airi Kuwata, Ryuki Miyatake, Yasuhiro Aida and Koichi Masuda, "A Basic Investigation of Resonance Characteristics of PW-OWC Type WECs," Proceedings of 3rd World Conference on Floating Solutions 2023, SFSS & WCFS 2023 Japan, pp.625-643, 2023.8.
- ◆Kanato Terasaki, Tomoki Ikoma, Koichi Masuda and Yasuhiro Aida, "A Study on Wave Free Configurations and Motion Responses for Advanced-SPAR Type FOWTs," Proceedings of 3rd World Conference on Floating Solutions 2023, SFSS & WCFS 2023 Japan, pp.716-728, 2023.8.
- ◆Kazuki Murata, Shinji Sassa, Yasuhiro Aida and Tomoki Ikoma, "Study on Applicability of the MPS Two-phase Flow Model to Submarine Landslide Problem and the Basic Characteristics of Impact Pressure on Mooring Anchors of Offshore Wind Turbine," Proceedings of 3rd World Conference on Floating Solutions 2023, SFSS & WCFS 2023 Japan, pp.792-803, 2023.8.
- ◆Koichi Masuda, Tomoki Ikoma and Yasuhiro Aida, "Fundamental research on tsunami-resistant design for coastal architectures considering hazard chains," Proceedings of 3rd World Conference on Floating Solutions 2023, SFSS & WCFS 2023 Japan, pp.804-812, 2023.8.
- ◆Yasuhiro Aida, Hibiki Nakazawa, Tomoki Ikoma and Koichi Masuda, "Numerical study of the variation of the velocity of a tsunami-drifting object in front of a building just before impact at different angles of tsunami incidence," Proceedings of 3rd World Conference on Floating Solutions 2023, SFSS & WCFS 2023 Japan, pp.814-830, 2023.8.
- ◆Tomoki Ikoma, Kento Suzuki, Yasuhiro Aida and Koichi Masuda, "Effects of a Moonpool on Steady Wave Drifting Forces on a Floating Pontoon," Proceedings of 3rd World Conference on Floating Solutions 2023, SFSS & WCFS 2023 Japan, pp.393-407, 2023.8.
- ◆Yusuke Shibuya, Yasuhiro Aida and Tomoki Ikoma, "Study on the Increase in Annual Maximum Significant Wave Height due to the Intensification of Typhoons using NOWPHAS Wave Observation Data," Proceedings of 3rd World Conference on Floating Solutions 2023, SFSS & WCFS 2023

Japan, pp.528-540, 2023.8.

- ◆相田康洋、畔柳昭雄、増田光一：巖島神社の海上への社殿建立に関する調査研究（その2）：巖島神社の平舞台に関する考察、日本建築学会計画系論文集 第 89 巻 第 816 号、232-239, 2024 年 2 月、J. Archit. Plann. AIJ, Vol. 89, No. 816, 232-239, Feb., 2024. DOI <https://doi.org/10.3130/aija.89.232>
- ◆Norio Kondo: Three-dimensional computation for flow-induced vibrations of two circular cylinders in tandem arrangement with narrow spacing, Journal of Sound and Vibration, vol.578, 2024. DOI <https://doi.org/10.1016/j.jsv.2024.118310>

口頭発表・ポスター発表

- ◆相田康洋、居駒知樹、増田光一、福永勇太：MPS 法による津波漂流物の衝突力推定に関する一連の研究、日本船舶海洋工学学会講演会論文集、第 36 号、2023S-OS4-7, 2023.5.
- ◆鈴木雅洋、居駒知樹、相田康洋、林昌奎：流れ中における円柱の回転が流速分布に与える影響に関する実験的研究、日本船舶海洋工学学会講演会論文集、第 36 号、2023S-GS10-6, 2023.5.
- ◆澁谷祐輔、相田康洋、居駒知樹：日本列島太平洋側の年最大有義波高の増大に観測地点の地盤変動が与える影響の調査と考察、日本沿岸域学会研究討論会、2022 年度講演概要集、No.35, 2023.7.
- ◆福永勇太、居駒知樹、譚雷、相田康洋：可変ピッチ垂直軸型風車を搭載した浮体の風単独作用時の流れ回り運動シミュレーションに関する基礎的研究、日本船舶海洋工学学会講演会論文集、第 37 号、O23A-GS5-2, 2023.11.
- ◆中澤響生、相田康洋、居駒知樹：構造物前面における津波漂流物の衝突速度に関する基礎的研究、第 30 回海洋工学シンポジウム、oes30-A0035, 2023.9.
- ◆堤龍也、居駒知樹、相田康洋、譚雷：PW-OWC の水面挙動特性に関する数値シミュレーション、第 30 回海洋工学シンポジウム、oes30-A0032, 2023.9.
- ◆福永佳晏、鈴木雅洋、居駒知樹、相田康洋、林昌奎：回転円柱に作用する流体力に与える流速分布の影響に関する実験的研究、日本沿岸域学会研究討論会、2023 年度講演概要集、No.35, file 7-2, 2023.7.
- ◆桑田愛理、居駒知樹、相田康洋、増田光一：PW-OWC 型波力発電装置における底板の厚みが一次変換特性の変化に関する研究、日本建築学会大会（近畿）学術講演会梗概集、10007, 2023.9.
- ◆宮武竜希、居駒知樹、相田康洋、増田光一：動吸振器モデルを用いた PW-OWC 型波力発電装置の一次変換特性に関する研究、日本建築学会大会（近畿）学術講演会梗概集、10008, 2023.9.
- ◆福永勇太、居駒知樹、相田康洋、増田光一：垂直軸型可変ピッチ風車に作用するスラスト荷重の推定および浮体の風追従運動の実現性に関する検討、日本建築学会大会（近畿）学術講演会梗概集、10009, 2023.9.
- ◆堤龍也、居駒知樹、相田康洋：CFD を用いた PW-OWC の水面の共振現象に関する基礎的研究、日本建築学会大会（近畿）学術講演会梗概集、10018, 2023.9.
- ◆寺崎哉人、居駒知樹、増田光一、相田康洋：2 点波無し浮体の長周期変動波漂流力特性について、日本建築学会大会（近畿）学術講演会梗概集、10019, 2023.9.
- ◆鈴木雅洋、居駒知樹、相田康洋、林昌奎：流れ中における回転円柱周りの流速分布とレイノルズ応力に関する実験的研究、日本建築学会大会（近畿）学術講演会梗概集、10020, 2023.9.
- ◆中澤響生、居駒知樹、相田康洋、増田光一：遡上津波中の建築物周りの流れ場と与える津波入射角の影響に関する基礎的研究、日本建築学会大会（近畿）学術講演会梗概集、10021, 2023.9.

教員研究業績 研究室活動業績

受賞等

- ◆2023年度住田海事技術奨励賞受賞図書（海洋建築シリーズ海洋建築序説）

学外活動（委員会活動等）

- ◆相田康洋：船舶海洋工学、海洋環境・海洋工学合同研究委員会 委員
- ◆相田康洋：日本建築学会・海洋建築委員会・海洋建築津波等防災小委員会 委員
- ◆相田康洋：日本建築学会・海洋建築本委員会 委員

- ◆相田康洋：第30回海洋工学シンポジウム（日本沿岸域学会）実行委員
- ◆相田康洋：沿岸域学会 企画運営委員会 委員
- ◆相田康洋：日本建築学会・海洋建築委員会・津波避難シェルター小委員会 幹事
- ◆相田康洋：World Conference on Floating Solutions 実行委員会 実行委員
- ◆近藤典夫：シェル・空間構造運営委員会 委員
- ◆近藤典夫：応用力学運営委員会 委員
- ◆近藤典夫：連続体力の連成問題小委員会 委員

北嶋研究室

審査付論文

- ◆上田英明、北嶋圭二、中西三和、安達洋：既存鉄筋コンクリート造建物の耐震補強に用いるリング機構式摩擦ダンパーに関する研究、日本建築学会構造系論文集、第88巻、第810号、pp.1273-1283、2023.8
- ◆上田英明、竹内健一、北嶋圭二：中層鉄筋コンクリート系集合住宅への摩擦ダンパー制震補強構法の適用、第16回日本地震工学シンポジウム、G41905、横浜、2023.11
- ◆波田雅也、竹内健一、北嶋圭二：折返しプレースの設計と適用事例、第16回日本地震工学シンポジウム、C1PA08、横浜、2023.11
- ◆杉山浩隆、関祥次、波田雅也、奥野陸人、竹内健一、北嶋圭二：折返しプレースの疲労特性に関する実験的研究、第16回日本地震工学シンポジウム、C1PA09、横浜、2023.11
- ◆山田遊耶、寺岡大輝、森川葵、國府田有加、波田雅也、北嶋圭二：黒鉛を摩擦材とした滑り基礎構造建物の地震応答性状に関する研究、第16回日本地震工学シンポジウム、C1PB07、横浜、2023.11
- ◆寺岡大輝、加藤百華、高橋孝二、北嶋圭二：連続梁モデルによる間柱型ダンパー降伏層間変形角の推定、第16回日本地震工学シンポジウム、C1PB08、横浜、2023.11
- ◆江口琢菜、松浦昂汰、扇谷匠己、北嶋圭二：観測加速度記録に基づくRC造建物の応急危険度判定法に関する研究、第16回日本地震工学シンポジウム、C1PB04、横浜、2023.11

口頭発表・ポスター発表

【日本建築学会大会】

- ◆波田雅也、関祥次、杉山浩隆、奥野陸人、竹内健一、中西三和、安達洋、北嶋圭二：中鋼管降伏タイプの折返しプレースの構造特性に関する実験的研究（その1 実験概要と単調引張荷重実験結果）、日本建築学会大会学術講演梗概集（近畿）、pp.1067-1068、2023.9
- ◆関祥次、波田雅也、杉山浩隆、奥野陸人、竹内健一、中西三和、安達洋、北嶋圭二：中鋼管降伏タイプの折返しプレースの構造特性に関する実験的研究（その2 漸増荷重実験結果）、日本建築学会大会学術講演梗概集（近畿）、pp.1069-1070、2023.9
- ◆杉山浩隆、山田遊耶、森川葵、北嶋圭二、中西三和、安達洋：黒鉛を摩擦材とした滑り基礎構造建物の地震応答性状に関する研究（その1 質量比・塔状比が異なる滑り基礎構造建物の時刻歴応答解析）、日本建築学会大会学術講演梗概集（近畿）、pp.437-438、2023.9
- ◆森川葵、杉山浩隆、山田遊耶、北嶋圭二、中西三和、安達洋：黒鉛を摩擦材とした滑り基礎構造建物の地震応答性状に関する研究（その2 基礎板加速度の上昇要因と発生メカニズム）、日本建築学会大会学術講演梗概集（近畿）、pp.439-440、2023.9
- ◆山田遊耶、杉山浩隆、森川葵、北嶋圭二、中西三和、安達洋：黒鉛を摩擦材とした滑り基礎構造建物の地震応答性状に関する研究（その3 浮上りが生じない限界塔状比の検討と滑り基礎構造建物の試設計）、日本建築学会大会学術講演梗概集（近畿）、pp.441-442、2023.9
- ◆大倉駿平、寺岡大輝、山田遊耶、中西三和、安達洋、北嶋圭二：上部構造が剛体および弾性体の滑り基礎構造建物の浮上り挙動に関する実験的研究（その1 実験概要および実験結果）、日本建築学会大会学術講演梗概集（近畿）、pp.443-444、2023.9
- ◆寺岡大輝、大倉駿平、山田遊耶、中西三和、安達洋、北嶋圭二：上部構造が剛体および弾性体の滑り基礎構造建物の浮上り挙動に関する実験的研究（その2 浮上りおよび滑り挙動について）、日本建築学会大会学術講演梗概集（近畿）、pp.445-446、2023.9
- ◆加藤百華、高橋孝二、北嶋圭二：連続梁モデルによる間柱型ダンパー降伏時層間変

- 形角の推定、日本建築学会大会学術講演梗概集（近畿）、pp.1089-1090、2023.9
- ◆江口琢菜、扇谷匠己、北嶋圭二：観測加速度記録に基づくRC造建物の応急危険度判定法の適用性に関する研究（その3 加速度記録に用いるフィルタ幅の検討）、日本建築学会大会学術講演梗概集（近畿）、pp.197-198、2023.9
- ◆扇谷匠己、江口琢菜、北嶋圭二：観測加速度記録に基づくRC造建物の応急危険度判定法の適用性に関する研究（その4 損傷判定条件の検討）、日本建築学会大会学術講演梗概集（近畿）、pp.199-200、2023.9

【理工学部学術講演会】

- ◆山田遊耶、中西三和、安達洋、北嶋圭二：滑り基礎構造建物の地震応答性状に関する研究—基礎の検討と構造種別が異なる滑り基礎構造建物の地震応答性状—、令和5年度日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、B-35、pp.85-86、2023.11
- ◆江口琢菜、扇谷匠己、北嶋圭二：観測加速度記録に基づくRC造建物の応急危険度判定法の適用性に関する研究—降伏判定条件に関する検討—、令和5年度日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、B-36、pp.87-88、2023.11
- ◆寺岡大輝、高橋孝二、北嶋圭二：連続梁モデルによる間柱型ダンパー降伏時層間変形角の推定—設置スパンごとのダンパー降伏時層間変形角について—、令和5年度日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、B-37、pp.89-90、2023.11
- ◆関祥次、杉山浩隆、波田雅也、中西三和、安達洋、北嶋圭二：繰返し荷重下における折返しプレース芯材の限界変形性能に関する研究（その1 単調圧縮荷重の区間分けと限界変位）、令和5年度日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、B-38、pp.91-92、2023.11
- ◆杉山浩隆、関祥次、波田雅也、中西三和、安達洋、北嶋圭二：繰返し荷重下における折返しプレース芯材の限界変形性能に関する研究（その2 繰返し荷重の局部座屈挙動）、令和5年度日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、B-39、pp.93-94、2023.11

所属学生の受賞等

- ◆江口琢菜：観測加速度記録に基づくRC造建物の応急危険度判定法の適用性に関する研究—降伏判定条件に関する検討—、令和5年度日本大学理工学部学術講演会 優秀発表賞（構造・強度部門）

学外活動（講演・講義等）

- ◆北嶋圭二：日本建築学会関東支部既刊図書講習会「免震・制振構造の設計—学びやすい構造設計—」、日本建築学会関東支部、2023.6.26（講師）
- ◆安達洋、北嶋圭二：2023年度JSCA千葉総会 記念講演会「地震被害と建築構造設計」、日本建築構造技術者協会関東甲信越支部 JSCA 千葉、2023.6.6（講師）

学外活動（委員会活動等）

- ◆日本建築学会 代議員
- ◆日本建築学会・鉄筋コンクリート構造運営委員会 委員
- ◆日本建築学会・既存中層RC建物の耐震性能評価指針作成小委員会 幹事
- ◆日本建築学会・既存中層RC建物の耐震性能評価指針作成小委員会・評価例作成WG 主査
- ◆日本建築学会・海洋建築本委員会 委員
- ◆日本建築学会・フローティング建築小委員会 委員
- ◆日本建築学会関東支部・地震災害調査連絡会 委員
- ◆日本建築学会関東支部・講習会用構造テキスト委員会・免震制振構造の設計改訂WG 委員
- ◆日本建築学会関東支部・講習会用構造テキスト委員会・耐震構造の設計改訂WG 委員
- ◆日本免震構造協会・審議員

教員研究業績 研究室活動業績

- ◆日本免震構造協会・技術委員会 委員
- ◆日本免震構造協会・制震部材品質基準小委員会 委員
- ◆日本免震構造協会・修士論文賞審査委員会 委員長
- ◆日本免震構造協会・資格制度委員会運営幹事 委員
- ◆日本沿岸域学会 理事
- ◆日本沿岸域学会 論文編集委員会 委員
- ◆ハウスプラス確認検査・高層評定委員会 委員
- ◆ハウスプラス確認検査・耐震診断・耐震改修等評定委員会 副委員長
- ◆日本建築検査協会・高層評定委員会 委員
- ◆日本建築検査協会・耐震判定委員会 委員

- ◆日本建築検査協会・指定構造計算適合性判定機関の専門家委員会 委員
- ◆構造調査コンサルティング協会・構造物評定委員会 委員

研究助成・受託研究

- ◆委託研究：青木あすな建設株式会社、合理的な耐震構造システムに関する研究開発
- ◆研究奨励寄付金：株式会社長谷工コーポレーション、構造ヘルスマニタリングに関する研究
- ◆研究奨励寄付金：株式会社巴技研、住宅基礎の合理化に関する研究
- ◆研究奨励寄付金：株式会社名構設計、折返しプレート式座屈拘束ブレース（FP-BRB）に関する研究

福井研究室

口頭発表・ポスター発表

- ◆浜原正行、小池正大、福井剛：アンボンド PCaPC 部材の破壊モードと応力伝達機構 その1 ストレスブロックに対する検討、日本建築学会大会（近畿）学術講演会梗概集 pp.561-562, 2023.9.
- ◆周鵬、小池正大、福井剛、浜原正行：アンボンド PCaPC 部材の破壊モードと応力伝達機構 その2 有限要素法による検討-1、日本建築学会大会（近畿）学術講演会梗概集 pp.563-564, 2023.9.
- ◆奥祐太郎、小池正大、福井剛、浜原正行：アンボンド PCaPC 部材の破壊モードと応力伝達機構 その3 有限要素法による検討-2、日本建築学会大会（近畿）学術講演会梗概集 pp. 565-566, 2023.9.
- ◆高木翔、小池正大、福井剛、浜原正行：アンボンド PCaPC 部材の破壊モードと応力伝達機構 その4 鉛直圧縮応力を求めるための理論式の誘導、日本建築学会大会（近畿）学術講演会梗概集 pp.567-568, 2023.9.
- ◆小池正大、浜原正行、福井剛：アンボンド PCaPC 部材の破壊モードと応力伝達機構 その5 計算結果に対する考察・検討、日本建築学会大会（近畿）学術講演会梗概集 pp.569-570, 2023.9.
- ◆高木翔、阿部達、保坂駿：PCaPC 圧着梁部材における PC 鋼材のアンボンド長さの影響に関する実験的研究、第 67 回日本大学理工学部学術講演会 構造・強度部会 pp.67-68, 2023.12.
- ◆阿部達、高木翔、保坂駿：PCaPC 圧着梁部材における PC 鋼材のアンボンド長さの影響に関する実験的研究 その2 実験結果 1、第 67 回日本大学理工学部学術講演会 構造・強度部会 pp.69-70, 2023.12.
- ◆保坂駿、高木翔、阿部達：PCaPC 圧着梁部材における PC 鋼材のアンボンド長さの影響に関する実験的研究 その3 実験結果 2、第 67 回日本大学理工学部学術講演会 構造・強度部会 pp.71-72, 2023.12

著書・執筆等

- ◆福井剛：プレストレストコンクリート建築を取り巻く最近の動向 PC 建築特集巻頭言、セメント協会、セメント・コンクリート 915 号、pp2-4,2023.5
- ◆福井剛：PC 技術の適用事例を学ぶ（第 9 回）建築での適用例：プレストレストコンクリート工学会、プレストレストコンクリート 65 巻 1 号、pp92-97,2023
- ◆森田明、岩見遼平、佐藤直人、福井剛：新日本情報システム株式会社社屋新築工事の設計・施工：プレストレスト木質部材を用いた施設、プレストレストコンクリート工学会、プレストレストコンクリート 65 巻 4 号、pp62-67,2023

審査付論文

- ◆郡司康浩、高橋孝二、菅野秀人、西田哲也：壁脚部のみに水平スリットを有する RC 袖壁付き柱の部分架構実験、コンクリート工学年次論文集 45 巻 2 号、pp.481-486
- ◆寺岡大輝、加藤百華、高橋孝二、北嶋圭二：連続梁モデルによる間柱型ダンパー降伏層間変形角の推定、第 16 回日本地震工学シンポジウム、C1PB08、横浜、2023. 11

口頭発表・ポスター発表

- 【日本建築学会大会】
- ◆高橋孝二、内藤隼汰：多層木質ラーメン構造の応答性に関する研究 その1

学外活動（講演・講義等）

- ◆丸田誠、福井剛（副司会）ほか：PC 構造が拓く建築デザインの可能性と将来展望、日本建築学会大会 [近畿]、パネルディスカッション、2023.9

学外活動（委員会活動等）

- ◆日本建築学会 代議員
- ◆日本建築学会・プレストレストコンクリート構造運営委員会 幹事
- ◆日本建築学会・プレストレストコンクリート標準指針小委員会 委員
- ◆日本建築学会・プレストレストコンクリート常時荷重設計法小委員会 主査
- ◆日本建築学会・プレストレストコンクリート材料・施工 WG 委員
- ◆日本建築学会・関東支部 プレストレストコンクリート建築専門研究委員会 委員
- ◆日本建築学会・関東支部 講習会用構造テキスト作成委員会 幹事
- ◆日本建築学会・関東支部 講習会用構造テキスト委員会 PC 構造の設計改定 WG 主査
- ◆プレストレストコンクリート工学会 浜松町駅旅客ホーム上家調査委員会 委員長
- ◆プレストレストコンクリート工学会・コンクリート構造診断士試験問題小委員会委員
- ◆プレストレストコンクリート工学会・コンクリート構造診断士技術講習会小委員会委員
- ◆プレストレストコンクリート工学会・PC 鋼材委員会 委員
- ◆日本 ERI・建築基準法に基づく構造性能評価委員会 委員
- ◆三井住友建設・調査委員会 外部有識者

研究助成・受託研究

- ◆福井剛：研究奨励寄付金、オリエンタル白石株式会社、PC 部材のせん断抵抗機構に関する解析的研究
- ◆福井剛：研究奨励寄付金、株式会社フジタ、高耐久・高耐力なコンクリート構造建築の開発
- ◆福井剛：受託研究、株式会社三菱地所設計、二重床 PC 合成床板の開発
- ◆福井剛：受託研究、株式会社ビーエス三菱、部分アンボンド PC 梁の開発

特許

- ◆福井剛：プレストレスト木質構造体及びその製造方法、特許第 7440050 号

高橋研究室

建物および解析モデル概要、日本建築学会大会（近畿）学術講演会梗概集 pp.497-498, 2023.9.

- ◆内藤隼汰、高橋孝二：多層木質ラーメン構造の応答性に関する研究 その2 解析概要および解析結果、日本建築学会大会（近畿）学術講演会梗概集 pp.499-500, 2023.9.
- ◆安田稜太、赤井冬来、金川基、飯塚信一、高橋孝二、丸田誠、伊丹光平：梁端部に開孔を有するヒンジリロケーション接合部に関する研究（その 7）十字形骨組実験の概要、日本建築学会大会（近畿）学術講演会梗概集 pp.447-448, 2023.9.
- ◆赤井冬来、安田稜太、金川基、飯塚信一、高橋孝二、丸田誠、伊丹光平：梁端部に開孔を有するヒンジリロケーション接合部に関する研究（その 8）十字形

教員研究業績 研究室活動業績

骨組実験の考察、日本建築学会大会（近畿）学術講演会梗概集 pp.449-450、2023.9.

- ◆加藤百華、高橋孝二、北嶋圭二：連続梁モデルによる間柱型ダンパー降伏時層間変形角の推定、日本建築学会大会（近畿）学術講演会梗概集 pp.1089-1090、2023.9.
 - ◆熊田健太、郡司康浩、高橋孝二、菅野秀人、西田哲也：壁脚部のみに水平スリットを有する RC 袖壁付き柱を用いた RC 架構の力学性状 その1 実験概要、日本建築学会大会（近畿）学術講演会梗概集 pp.439-440、2023.9.
 - ◆郡司康浩、熊田健太、高橋孝二、菅野秀人、西田哲也：壁脚部のみに水平スリットを有する RC 袖壁付き柱を用いた RC 架構の力学性状 その2 梁・袖壁の挙動、日本建築学会大会（近畿）学術講演会梗概集 pp.441-442、2023.9.
- 【理工学部学術講演会】
- ◆寺岡大輝、高橋孝二、北嶋圭二：連続梁モデルによる間柱型ダンパー降伏層間変形角の推定—設置スパンごとのダンパー降伏層間変形角について—、令和5年度日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、B-37,pp.89-90、2023.11

- ◆内藤隼汰、高橋孝二：制振技術を用いた多層木質ラーメン構造に関する研究—部材断面の縮小化と応答低減効果の検討—、令和5年度日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、B-40,pp.95-96、2023.11

学外活動（委員会活動等）

- ◆日本建築学会・司法普及交流部会 委員
- ◆日本建築学会関東支部・PC 建築専門研究委員会 委員
- ◆日本建築学会・フローティング建築小委員 委員
- ◆日本建築学会・第23期代議員
- ◆UR 都市機構・超高層鉄筋コンクリート構造設計指針改定作成委員会 SWG 委員

研究助成・受託研究

- ◆高橋孝二：共同研究、西松建設(株)、水平スリットのみを配置する鉄筋コンクリート造袖壁付き柱構造の性状把握に関する共同研究
- ◆高橋孝二：共同研究、西松建設(株)、中大規模木造建築物の開発に関する共同研究

星上研究室

審査付論文

- ◆三田周平、野志保仁、宇多高明、星上幸良：海浜における海ゴミの漂着位置の計算手法、土木学会論文集 B3（海洋開発）、Vol.79、No.3、B3-024、2023.06.
- ◆野志保仁、宇多高明、中田祐希、伊達文美：沖繩のサンゴ洲島（ナガンヌ島）の変形と軽石漂着、土木学会論文集 B3（海洋開発）、Vol.79、No.3、B3-025、2023.06.
- ◆中田祐希、宇多高明、野志保仁、石井優気、三田周平：河口砂州を動的平衡状態に保つ上で必要とされる中導流堤の漂砂阻止効果、土木学会論文集 B3（海洋開発）、Vol.79、No.3、B3-026、2023.06.
- ◆宇多高明、星上幸良、五十嵐竜行、芹沢真澄：沼川第二放水路でのフラッシュ放流時の地形変化と波によるバーム再形成予測、土木学会論文集 B3（海洋開発）、Vol.79、No.3、B3-019、2023.06.
- ◆宇多高明、岡崎昂大、柴田光彦、星上幸良、大木康弘：通常波浪条件下における阿字ヶ浦海岸のサンドリサイクル養浜砂の流出観測、土木学会論文集 B2（海岸工学）、Vol.79、No.2、2023.9.

口頭発表・ポスター発表

- ◆野志保仁、宇多高明、石井優気、中田祐希、三田周平：漂砂バランスの崩れに伴う汀線後退による直立護岸の倒壊、日本沿岸域学会研究討論会 2023 講演概要集、No.35（PDF）、セッション 1-1、2023.7.
- ◆星上幸良、宇多高明、永野千紘、三浦颯斗、伊達文美：茅ヶ崎海岸の養浜盛り土の変形に関する UAV 測量と現地調査、日本沿岸域学会研究討論会 2023 講演概要集、No.35（PDF）、セッション 1-4、2023.7.
- ◆倉上桃佳、宇多高明、伊達文美、野志保仁、佐久間和也、生田目瑠偉：沖繩備瀬海岸での侵食に伴う beachrock の剥離現象、日本沿岸域学会研究討論会 2023 講演概要集、No.35（PDF）、セッション 1-2、2023.7.
- ◆高須健巨、星上幸良：津波自主避難計画の普及促進に関する研究、日本沿岸域学会研究討論会 2023 講演概要集、No.35（PDF）、セッション 2-1、2023.7.
- ◆星上幸良、小林昭男：海浜におけるマイクロプラスチックの分布について、日本建築学会大会（京都）学術講演会梗概集 pp.67-68、2023.9.
- ◆星上幸良、小林昭男：江東区南部地区を活用した大規模水害時の避難計画について、日本建築学会大会（京都）学術講演会梗概集 pp.91-92、2023.9.

- ◆星上幸良：関東地震津波の被害状況から俯瞰した今後の災害リスク、日本建築学会大会（京都）研究協議会海洋建築部会津波 WG、2023.9.
- ◆稲毛皓輝、尾身涼介、星上幸良：家屋等の津波避難における垂直避難に関する診断チャートの提案、2023 年度日本大学理工学部学術講演会、2023.11.
- ◆阿込波希、河津友規、星上幸良：学校における津波避難計画の普及促進に関する研究、2023 年度日本大学理工学部学術講演会、2023.11.

所属学生の受賞等

- ◆阿込波希（河津友規 共著）：「優秀発表賞」、学校における津波避難計画の普及促進に関する研究、令和5年度第67回日本大学理工学部学術講演会、2023.11.

学外活動（講演・講義等）

- ◆星上幸良：「津波災害に備えよう」関東大震災から100年～東日本大震災の経験知を自助に活かす～、日本大学理工学部タワースコラ、第40回日本大学理工学部図書館公開講座、2023.6.16.
- ◆星上幸良：「津波災害に備えよう」関東大震災から100年～東日本大震災の経験知を自助に活かす～、千葉県館山市、館山市西岬地区防災訓練、2023.11.26.
- ◆星上幸良：机上訓練に防災アドバイザーとしてWEB参加、千葉県館山市、館山市合同防災訓練、2023.11.27.
- ◆星上幸良：「津波災害に備えよう」関東大震災から100年～東日本大震災の経験知を自助に活かす～、千葉県館山市、館山市防災ミーティング、2024.1.20.

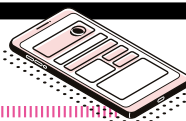
学外活動（委員会活動等）

- ◆日本建築学会 津波 WG 委員
- ◆日本建築学会 海洋建築本委員会 委員
- ◆日本建築学会 災害委員会 委員
- ◆日本建築学会 SDGs 対応推進特別委員会 委員

研究助成・受託研究

- ◆星上幸良：研究奨励寄付金、一般財団土木研究センター、UAV 測量による阿字ヶ浦海岸の地形変化に関する研究

最新情報を SNS でチェック!!



卒業生の就職状況および就職活動に向けて

1. 就職状況の全体像

昨年度(2024年3月末時点)の進学・就職状況を(表1)に示します。就職希望者の就職内定率は、学部・大学院ともにほぼ100%となりました。令和5年度の就職活動は、前年度とは違い多くの企業で対面形式のインターンシップや企業説明会および採用面接が開催され、コロナ禍以前の状態にほぼ戻りました。また、建設業界の人手不足は未だ顕著であり、人材確保に積極的な企業が多いことから、ここ数年の就職状況は大変、堅調な状態であると言えます。

2. 業種別就職内定先

本学科の2024年3月卒業学生の主要内定企業一覧を(表2)に示します。就職先は、建設業(ゼネコン)が最も多く、令和5年度は55名であり全体の53%を占めています。また、設計事務所は6名(6%)、住宅・不動産は5名(5%)、であり、これらで全体の約70%を占めています。また、比較的土木寄りの業種である建設・海洋コンサルタントへの就職が18名(17%)いることや建設業の中でもマリコン(表中の*)が多いことが本学科の特徴です。内定先企業名をみると、いずれも業界屈指の大手企業に一定数が就職していることが分かります。

表1 就職・進学状況(学部・大学院)

	学部			大学院			学部・院 合計	学部・院合計	
	男子	女子	男女合計	男子	女子	男女合計		R4年度	R3年度
学生数(人)	113	32	145	29	5	34	179	175	168
就職希望者(人)	52	26	78	26	5	31	109	113	127
内定	51	26	77	26	5	31	108	113	125
未定	1	0	1	0	0	0	1	0	2
内定率(%)	98	100	99	100	100	100	99	100	98
大学院進学(人)	36	5	41	0	0	0	41	29	36
本学	36	4	40	0	0	0	40	27	36
他大学	0	1	1	0	0	0	1	2	0
その他(人)	8	0	8	1	0	1	9	5	5
研究生	0	0	0	0	0	0	0	0	0
留学(希望者含む)	2	0	2	0	0	0	2	0	0
他大学・専門学校	0	0	0	0	0	0	0	0	0
次年度公務員志望	0	0	0	0	0	0	0	1	0
就職の意思のない者	6	0	6	1	0	1	7	4	5

表2 主要就職先企業一覧

業種	会社名	学部	大学院	業種	会社名	学部	大学院	業種	会社名	学部	大学院
建設業	清水建設	2		建設業	東洋建設*	2		不動産 メーカー	大和ハウス工業	1	
	大成建設	8			若築建設*	1			三菱地所ホーム	1	
	大林組		1		五洋建設*	3			ポラス	1	
	佐藤工業	1			東亜建設工業*	1			生和コーポレーション	1	
	大本組		1	建設 コンサル タント	日本港湾コンサルタント	1		公務員	国土交通省		1
	戸田建設	4	1		長大		1		千葉市	1	
	フジタ	1	2		建設技術研究所	1			横浜市	2	
	前田建設工業	1			国際航業		1		越谷市	1	
	鉄建建設	2			ボルテック		1		茅ヶ崎市	1	
	飛鳥建設	1			三井共同建設コンサルタント		3	ハウスプラス	1		
	長谷工コーポレーション	4			日本エンジニアリング	6		日立造船	1	2	
	高松建設	3			日本工営		1	東洋エンジニアリング		2	
	東鉄工業	1			八千代エンジニアリング		1	東芝プラントシステム		1	
	日本国土開発		1		松田平田		1	東京電力ホールディングス		1	
	鴻池組	1		佐藤総合計画		1	(一財)国土技術研究センター		1		
	ビーエス三菱	1		クロスファクトリー		2	JTB 商事		1		
	東京パワーテクノロジー	2		STRUCT DESIGN		1	乃村工芸社	1	1		
	栗本建設工業	1		光井純アンドアソシエーツ建築設計事務所		1	助友	1			

*マリコン

3. 就職活動のサポート

就職活動に際しては、学科が積極的なサポートを行っています。新3年生の前期の授業として「**海洋建築工学キャリアデザイン**」を実施しています。本授業では、最新の企業動向や就職活動における重要な情報を伝えます。また、大手のゼネコンや設計事務所、コンサルタントに内定した先輩方の体験談を座談会形式で聞くこともできます。これまでの就職指導の経験を通して、海洋建築工学科の学生の適性や嗜好を踏まえた内容としているため、他にはないものになっています。海洋建築工学科OBOGによる会社説明会である「**カイケンJOBスクール**」(7月上旬開始予定)では、海建の学生を熱望する企業が30社以上参加します。本来、これらの企業をすべて訪問するには、おそらく半年以上かかるでしょう。建築、土木、建設コンサルタント、エンジニアリングなど、様々な企業の情報を収集することができます。視野を大きく広げる機会としてください。また、建築学科との共催による「**OBOGと学生との懇談会**」(8月上旬開始予定)は、建築関連企業に特化した就職イベントです。大手ゼネコンを含む約80社が参加し、企業側の説明者は両学科のOBOGです。建設業に進む学生の8割は、これらのイベントの参加企業に就職しています。各種イベントを最大限に有効活用し、日本大学の強みであるOBOGネットワークを駆使して、希望する企業への就職内定を勝ち取りましょう。令和6年度の学科の就職指導担当は高橋、寺口、学科教室事務の担当者がフォローします。学科教室事務室は13号館3階1331室です。対応時間は平日9～17時です。また、moodleの「**2026卒就職関連情報**」ページには、学科の就職イベントやインターンシップおよび会社説明会、求人情報などを随時掲載しています。こまめに確認するように心掛けてください。さらに、13号館1階の「**キャリア支援センター**」では、企業情報やOBOGの活動履歴の閲覧に加え、履歴書の作成指導や模擬面接を受けることができます。是非一度足を運んでみてください。

4. 本年度の就職活動に向けて

企業の採用活動の時期は、年々早期化する傾向が見られます。大手ゼネコンや大手設計事務所は、かなり早期に採用活動を開始しています。有利に就職活動を進めるためには、夏期インターンシップ(8～9月頃)に参加するなど、情報収集を行うとともに計画性をもって活動していく必要があります。また、早期に採用活動を実施する企業は、夏期インターンシップや現場見学会において、リクレーターによる面談が行われ学生の選抜が進められます。これは実質的な面接です。年内に内定を出す企業もあります。それ以外の多くの企業は、採用時期は若干遅くなりますが、各種の就職イベントが次々に開催されます。そのため、夏ごろには就職の方向性(業種・職種・企業規模等)を決めておく必要があります。各企業の開催日程が重複するため、それほど多くのイベントには参加出来ないためです。インターンシップへの参加は就職活動の必須条件ではありませんが、学生は企業と仕事内容を知り、企業は学生と巡り会う機会として、双方のメリットがあるため、この数年で開催頻度が急速に増えてきており、その重要度も増す傾向にあります。特に、夏期インターンシップには、興味のある業種の企業に最低でも1つは参加しましょう。就職活動に対する意識・考え方も変わるはずですが、3年生の夏休みの過ごし方は重要であり、SPI試験対策や専門試験対策、企業研究、履歴書の試作等、やるべきことが盛りだくさんです。

5. オンラインでの就職活動における留意点

コロナ禍以降でも、対面形式に全て移行せずとオンライン形式を併用する企業が多いです。オンラインを中心とした就職活動では、大学や企業からの様々な情報を見逃さないように注意しましょう。企業の動きや同級生の活動状況が分からず、自分自身の就職活動の状態に不安を感じることもあると思います。就職指導担当の教員や所属する研究室の指導教員に相談したり、研究室の先輩の体験談を聞いたりすると方向性が見いだせるはずですが、自ら積極的に情報収集を行うようにしましょう。

6. 大学院進学への勧め

海洋建築工学科では、毎年数多くの学部生が大学院へ進学しています。(表1)に示すように毎年3割程度は進学していて、理工学部内でも常にトップクラスです。大学院で更にレベルの高い学問を修得することにより、専門性を高めた仕事に就くことができます。是非、進学も視野に入れた進路を考えてみてください。

大学院の入試は、4年生の年の7月、9月、3月の3期に渡り実施されます。試験は筆記と面接になりますが、3年生までの成績による推薦入学もあるので、しっかり学修することを心がけましょう。

学科就職担当 高橋孝二・寺口敬秀

令和5年度 桜門建築会主催

海洋建築系研究懇談会 開催報告

海洋建築系研究懇談会では、海洋建築分野に関する最新動向や研究活動に関して、毎年講演会を開催しています。令和5年度では、合計3回の講演会が開催され、様々な意見交換が行われました。本講演会はどなたでも参加できますので、是非、海洋建築分野のさまざまな知識のインプットの機会として活用してください。開催情報はホームページやSNS等をご覧ください。(幹事：菅原遼)



海と建築

vol.
29

ガリンコ号とオホーツクタワー

毎年2月のほぼ1か月間、オホーツク海に面した北海道沿岸は流氷で覆われ、一般の船舶は航行できなくなる。この氷は、ロシアのアムール川河口付近で生まれ、1000kmもの旅をしてここに流れついたものである。この期間、紋別市では、砕氷船ガリンコ号を運航し国内外から多数の観光客を集めている。ガリンコ号は、船体前部に取り付けられた2本のドリルで氷を砕きながら進み、船首

付近ではガリガリと迫力ある音を立ててドリルが流氷を砕く様子を見ることができる。

ガリンコ号が発着する紋別港第3防波堤の3階部分から沖に向かってクリオネpromナードと名付けられた渡海橋が接続され、その先端に世界初の氷海展望塔オホーツクタワーがある。流氷の季節には、3階展望塔から流氷原を見渡すことができ、海底階には大小11枚の窓から海中を観察できるほか、オホーツクの海洋生物を展示したミニ水族館や映像ホールなども備わっている。日本各地に建設された他の海中展望塔はすべて鋼製構造であるのに対して、このオホーツクタワーのみ下部構造が鉄筋コンクリート構造となっていることが大きな特徴である。地球温暖化の影響で流氷の厚みもこの30年間で3割も薄くなり、海面を覆う氷の面積も縮小しているそうである。

(特任教授 桜井慎一)



紋別港を出港するガリンコ号



ガリンコ号から見る流氷原



オホーツクタワー



クリオネpromナードの夜景



教員異動

昇格：教授 高橋孝二 先生
 昇格：准教授 相田康洋 先生
 着任：准教授 江川香奈 先生
 着任：准教授 長谷川洋平 先生
 着任：助教 柴山淳 先生
 着任：非常勤講師 門間正彦 先生
 着任：非常勤講師 矢川隆史 先生

退任：教授 三五弘之 先生 (4月より特任教授)
 退任：非常勤講師 長谷川洋平 先生 (4月より准教授)
 退任：非常勤講師 柴山淳 先生 (4月より助教)
 退任：非常勤講師 鈴木洋 先生
 退任：非常勤講師 穴澤順子 先生
 退任：非常勤講師 大塚文和 先生



カイケンマガジン No.121

発行者／福井剛 発行日／令和6年4月1日

〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1
 日本大学理工学部海洋建築工学科教室
 Tel：047-469-5420 (事務室)
 Fax：047-467-9446

編集委員：相田康洋
<https://www.ocean.cst.nihon-u.ac.jp>
 デザイン制作 — QB System Co.,LTD.